

# 第 53 回河川レンジャー制度運営委員会

日時：平成 30 年 2 月 22 日（木）

13：30～17：00

場所：ウォーターステーション琵琶

## 議 事 次 第

1. 開会
2. 報告
  - (1) 第 52 回河川レンジャー制度運営委員会の議事録について
  - (2) 琵琶湖河川レンジャー・琵琶湖河川事務所意見交換会について
3. 審議
  - 河川レンジャー年間活動報告の発表
4. その他
  - (1) 平成 30 年度の河川レンジャー活動について
  - (2) 河川管理者からの情報提供について
  - (3) 傍聴者意見
5. 閉会

---

### 配布資料

- 資料 1 委員名簿
- 資料 2 第 52 回河川レンジャー制度運営委員会議事録
- 資料 3 - 1 第 2 回琵琶湖河川レンジャー・琵琶湖河川事務所意見交換会
- 資料 3 - 2 河川管理者が希望する河川レンジャー活動のリスト
- 資料 4 河川レンジャー年間活動報告書要約版

## 平成 29 年度河川レンジャー制度運営委員会

### 委員名簿

#### 【学識経験者 3 名】

大野 智彦 (欠席)

中谷 恵剛 (出席)

平山 奈央子 (出席)

#### 【住 民 1 名】

北井 香 (出席)

#### 【行政関係者(河川管理者) 2 名】

橋本 聡 (滋賀県土木交通部流域政策局河川・港湾室長)  
(欠席)

水草 浩一 (国土交通省琵琶湖河川事務所長)  
(出席)

(各 5 0 音順、敬称略)

第52回河川レンジャー制度運営委員会(2017.10.25) 議事録

出席：大野委員、中谷委員、北井委員、橋本委員、水草委員、平山委員

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
1. 開会	△畠中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定刻になりましたので、第52回河川レンジャー制度運営委員会を開催させていただきますと思います。</li> <li>・本日は、委員会にご出席いただきまして、まことにありがとうございます。</li> <li>・私は、委員会事務局の畠中と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</li> <li>・本委員会の委員は6名となっておりますので、本日は全員の出席を得ていますので、委員会規約第8条の定めによりまして成立しておりますことをまずご報告いたします。</li> <li>・それでは、会議に先立ちまして、お手元の資料の確認をさせていただきます。まず、本委員会の議事次第がございます。次に、資料1といたしまして委員名簿でございます。資料2といたしまして前回の第51回制度運営委員会の議事録、資料3といたしまして第1回琵琶湖河川レンジャー・琵琶湖河川事務所の意見交換会の概要をまとめた資料をつけております。それから、資料4-1となっております。カラー刷りものを合わせて、水上レンジャーの年間活動計画(案)をつけております。次に、資料5-1から5-3がそれぞれのレンジャーの中間報告書、資料5-3-2といたしまして真田レンジャーの補足的な説明資料をおつけしております。あと、委員の皆様のみ、A3版の「野洲川の水辺整備に対する利用者意向調査」、「あめんぼうサポート隊 隊員募集!」という、こちらの資料はきょうの中間報告のときにお使いいただく説明資料をあわせて配布させていただいております。以上が本日の配布資料でございますが、資料の不足等ございませんでしょうか。</li> <li>・それでは、早速、議事次第に即して進めさせていただきますと思います。ここからの進行は、委員長のほうでお願いいたします。</li> </ul>

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
2. 委員紹介	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、第52回制度運営委員会を始めさせていただきます。委員の皆様、ご出席いただきましてありがとうございます。議事次第にのっとり進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</li> <li>・まず、2番目、委員紹介ということで、事務局からお願いします。</li> </ul>
	△畠中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日は今年度2回目の委員会でございますが、前回ご出席いただけなかった委員様と変更になりました委員様がいらっしゃいます。</li> <li>・まず、滋賀県土木交通部流域政策局河川・港湾室長の橋本委員が本日からご出席いただいておりますので、簡単に自己紹介をお願いできればと思い</li> </ul>

		ます。よろしくお願いいたします。
	橋本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この4月から河川・港湾室長を拝命しまして、県庁のほうで仕事をしております。</li> <li>・私は、今までの経験上は河川の仕事が非常に多く、大半が河川の仕事に関わってきたということで、滋賀の川に係る治水または維持管理、そういった面で住民を通していろいろご意見をいただいております。特に近年は維持管理について非常にいろんなところから要望を受けて、実は頭を悩ませております。そういう意味で、皆さんの力をお借りしながら何かいい知恵があればなという思いで出席させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。</li> </ul>
	△畠中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> <li>・それからもうお一方ですけれども、7月から、山口委員にかわりまして、琵琶湖河川事務所長として水草委員がこちらのほうに異動されてまいりましたので、新たな委員として本日ご紹介させていただきます。水草委員、簡単に自己紹介をお願いいたします。</li> </ul>
	水草	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご紹介いただきましたように、7月1日から琵琶湖河川事務所長で参りました水草と申します。よろしくお願いいたします。</li> <li>・河川管理者といたしまして、淀川の河川整備計画とその中で位置づけられておりますこのレンジャー制度の規約とを照らし合わせて、現在、確認作業をしております。今後のレンジャーのあり方はどうあるべきかということが10年来ぐらい議論されていることも過去の議事録を読ませていただいて承知しておりますし、所内でもいろいろ議論しておるところでございます。整備計画も含めて、河川をよくするという方向性に住民の方々を巻き込みつつ、このレンジャー制度がツールとして、また活動している皆さんも含めて、よりよい地域をつくるために生かしていけたらなということで検討してまいりますので、本日は実のある議論をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</li> </ul>
	△畠中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。それでは、橋本委員、水草委員、よろしくお願いいたします。</li> <li>・以上で委員紹介を終わりたいと思っております。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今、ご紹介いただきましたが、改めまして、皆さん、よろしくお願いいたします。</li> </ul>

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
3. 河川レンジャー任命式	中谷	・それでは次に、レンジャーさんの任命式に進めさせていただきます。
	△畠中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、ただいまから水上レンジャーの任命式を行いたいと思っております。</li> <li>・水上レンジャーは、平成29年6月に開催されました第51回制度運営委員会</li> </ul>

		<p>におきましてレンジャー審査に合格されました。本来すぐに任命式をとり行うべきですけれども、委員会のタイミングに合わせまして、本日皆様の前で任命をさせていただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>・それでは、前のほうへよろしく願いいたします。</p>
	中谷	<p>・任命書 水上幸夫様 琵琶湖河川レンジャーに任命します 期間 平成29年7月1日から平成31年3月31日まで 平成29年9月25日 河川レンジャー制度運営委員会 委員長 中谷恵剛</p> <p>・よろしく願いいたします。</p>
	R水上	<p>・よろしく願いいたします。</p>
	△畠中	<p>・では、委員長から一言と、水上レンジャーから抱負の言葉をいただきたいので、よろしく願いいたします。</p>
	中谷	<p>・水上レンジャーは、行政の経験が非常に長く、フィールドとされている部分も熟知されておられます。そういう面では、これまでは「住民とうまくつないで欲しい」ということを頼まれる立場だったが、それをいよいよ実現していただく立場になりました。経験を生かして頑張ってくださいと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
	R水上	<p>・まだまだ力不足で、何ができるかわからないですけれども、特に住民さんといろんなところをつないで、今度は住民さんのためのいろんな活動ができればいいと思っていますので、皆さんの支援をよろしく願いいたします。</p>
	△畠中	<p>・では、水上レンジャー、よろしく願いいたします。ありがとうございました。</p>

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
4. 報告 (1) 第51回河川レンジャー制度運営委員会の議事録について	中谷	<p>・それでは、次は報告事項ですが、まずは事務局から進め方の説明をお願いします。</p>
	△畠中	<p>・報告事項の1つ目といたしまして、資料2をごらんいただきたいと思います。こちらにつきましては前回の第51回河川レンジャー制度運営委員会の発言録となっておりますが、事前に委員の皆様にはご確認をいただいておりますかと思っております。本日この場にて改めて資料として添付させていただいておりますので、ご確認をいただければと思います。よろしく願いいたします。</p>
	中谷	<p>・今もお話がありましたように、委員の皆様には一旦確認いただいております</p>

		ので、また目を通していただいて、補足がありましたら追加すればいいかなと思います。この資料2についてはそのようにさせていただきます。
--	--	---

(**太字**：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
4. 報告 (2) 琵琶湖河川レンジャー・琵琶湖河川事務所意見交換会について	△畠中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続きまして、資料3をごらんいただければと思います。こちらは、第1回琵琶湖河川レンジャー・琵琶湖河川事務所の意見交換会の概要についてのご報告でございます。</li> <li>・平成29年7月31日の午後3時から5時の間で、この施設の2階の交流スペースにおきまして、河川レンジャーの皆さんと河川事務所の皆さんにお集まりいただき、意見交換会という形で進めさせていただきました。</li> <li>・進め方に関しましても、委員会のほうから少しご助言、アドバイスもいただきました。今までは、河川レンジャーの皆さんが一人一人自分の活動テーマを説明した上で、それに関して事務所の職員から情報提供をしていただいたり、テーブルを分けてレンジャーごとにグループワークでおこなってのですが、今回は「瀬田川」と「野洲川」の2グループに分かれ、河川の課題とそれに向けた河川レンジャーの役割といったテーマで話をするスタイルで進めさせていただきました。</li> <li>・趣旨としては、琵琶湖河川レンジャーの活動について、委員会意見を踏まえ、個別の活動に対する議論ではなく、大きなテーマで住民連携や川づくり、住民参加ビジョンについて語り合う場といたしました。</li> <li>・会の流れとしまして、今申しあげました趣旨から、まず琵琶湖河川事務所さんから瀬田川・野洲川における課題をご紹介いただきました。そして、支援室から河川レンジャー制度について概要を説明した後、アイスブレイクを挟みまして、瀬田川グループと野洲川グループの2つに分かれまして、テーマワークを議論いたしました。そのテーマといたしましては「瀬田川・野洲川の川づくりにおける住民参加やNPO団体等の関わりについて」と「河川レンジャーに期待される役割について」とし、意見交換を行ったところでございます。</li> <li>・出席者は、河川レンジャーが4名、琵琶湖河川事務所からはお示ししている部署のほうから合計14名、支援室から3名ということで、20名程度のメンバーで意見交換をさせていただいたところでございます。</li> <li>・非常に活発な意見交換になりまして、テーマについての議論を一通り職員の皆さんとレンジャーの皆さんとで出させていただきました。「河川レンジャーに期待される役割について」というところももう少し深く議論できればというぐらい、さまざまな意見をいただきまして、非常にいい意見交換になったのではないかなと思っています。</li> <li>・瀬田川グループには、北村レンジャーと眞田レンジャーが参加されました。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題としましては、ごみ問題、治水・利水の環境への考え方、外来水草の繁茂、それから洗堰の役割など、これらについて地域住民の方々の意識や行動をもっと変えていけないかといったことが課題として挙げられました。</li> <li>・ごみ問題は、住民主体（自治体・NPO）でのアプローチを考えていくこと。それから、釣り人に関しましては、個人活動が多いため、そのリーダーにどのようにアプローチしていくべきなのか。また、環境や洗堰の役割については、小中学校での学習機会にアプローチすることが考えられないかというような意見が出ました。</li> <li>・それに対するレンジャーの役割として、清掃の呼びかけ、それから正しい知識ですね。特に外来水草などは、駆除の方法を間違えると、かえって繁茂させてしまうおそれもありますので、正しい知識を提供するつなぎ役、こういった役割が期待されておるのではないかということがまとめの意見として出されました。</li> <li>・野洲川グループには、根木山レンジャーと水上レンジャーが参加されました。</li> <li>・課題としては、ごみの不法投棄。また、野洲川は広い河川空間があるけれど、利用が少ないという点が挙げられました。</li> <li>・河川法は「これをしてはいけない」ということから始まっているのですが、近年少し河川管理の方向が変わりまして、民間の活力を借りて利活用していけないかというような動きが出てきていると。特に行政だけではやりにくい部分について、民間のニーズをレンジャーのネットワークの中で聞き取り、行政の制度や情報とマッチングしていくようなプロモーションや役割分担をしていくのがよいのではないかというまとめをしていただいたところです。</li> <li>・全体としまして、河川レンジャーが活動する上でわからないことに関しての支援については、事務所と支援室がもっと一体となって取り組むことが必要ではないかという意見も出されたところでございます。</li> <li>・少し小さいですが、そのときのグループワークの様子を写真としてつけさせていただきますいております。</li> <li>・簡単ですが、報告としては以上です。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございました。今、事務局から報告がありましたけれども、機会としては大変有意義であったなというふうには思います。</li> <li>・委員の皆様から、この機会について何かコメントなりご意見なり、また質問でもありましたらお伺いしますが、いかがでしょうか。・・・では、コレンジャーからこういう機会に関して何か思っていたことがありましたらお伺いします。個々の活動の具体的内容ということではなく、こういう事務所との意見交換の機会について主にお話しいただければと思うので</li> </ul>

		すが、いかがでしょうか。
R根木山		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までは主に河川レンジャーの具体的な活動を軸に意見交換することが多かったのですが、今回は逆に行政サイドから課題を提示していただいた上でお話しさせてもらったので、今までとは違う角度で議論ができて、行政が抱えているものを把握するという意味では非常に貴重な機会だったというふうに思います。</li> <li>・行政サイドのロジックというか、論理というか、そういうものを河川レンジャーも十分に承知してない場合もあるので、そういう意味では非常に有意義な機会だったなというふうに感じました。</li> </ul>
水上		<ul style="list-style-type: none"> <li>・私の場合、行政の思いも聞くことができ、新しい計画をつくるのにいい機会を設けていただいたなど。今回、まさに行政とつなぐところも盛り込むことができたということで、非常に有意義な意見交換会だったと思っています。</li> </ul>
中谷		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほかにありましたら伺いますが、いかがでしょうか。・・・皆さんお忙しい中で時間を設定するという事は、難しい状況ではあります。特にレンジャーの活動もそれぞれペースが違いますが、お二方からお話がありましたように、やはりこういう機会は一定設け、すり合わせというか、お互いの考え方を知らないで、幾ら「つなぐ」と言ってもどういうところが期待されているのかや、そこを一致させていくことが非常に大事だと思います。これからもうまく機会を見つけて進めていければいいなと思いますし、そこは支援室のほうでも適宜準備をしていただくようお願いしたいと思います。また、きょうは河川事務所長も委員としてお見えですので、そういうところでうまく機会をつくっていけるといいなと思います。</li> <li>・ほかに委員の皆様から何かありませんか。</li> </ul>
北井		<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見交換のやり方が変わって、さっきの畠中さんの説明の中であつたように、それぞれの課題に対してレンジャーの役割に期待することといった意見も出てきてよかったというのは、次の展望も見えたようなので、こういうふうな意見交換の機会が充実していくと、お互いいい連携ができるのかなと思いました。</li> <li>・今、レンジャーから伺いましたが、河川事務所からもたくさんご参加いただいていたようなので、後の感触など聞かれたことがあるようでしたら教えてもらいたいと思ったのですが、どなたか答えていただいてもよろしいですか。それか、個人的にというか、方法が変わったので感想でもいいです。</li> </ul>
△奥野		<ul style="list-style-type: none"> <li>・私自身の感想としましては、なかなか意見が出にくかったということがあるか。</li> </ul>
北井		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までですか。</li> </ul>
△奥野		<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。ところが、今回のやり方では、課題といったところの共通認識や共</li> </ul>



		<p>通の話題をお互い持つことによって活発な意見交換ができたのではないかとということで有意義だったと感じております。</p>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほかにも事務所から来ていただいておりますが、いかがですか。遠慮なくご発言ください。</li> <li>・今もお話がありましたが、事務所でも、担当ごとに仕事に分かれていくと、かなり範囲が絞られてきて、当然レンジャーとは直接関係ないというようなことがあると思います。ただ、仕事をしていると、そこにはどなたかは住んでいて、その方の幸せのために仕事をしてもらっている。ダイレクトに関係しないけれど何かつながっているはずで、その辺は河川管理者としても意識を持ってもらえているといいなというふうに思っております。</li> <li>・ほかにもいかがですか。せっかくの機会ですので。</li> </ul>
	橋本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんの川を抱えている中では、維持管理も含めて、我々河川管理者から見る川の管理の仕方など、難しさがあります。しかし、住民は地域ごとの課題を見ておられ、「なぜしてくれないの」ということを非常にたくさん耳にします。全体を見て「ここは今難しいです」と、しっかり説明をしていかなければ理解してもらえない部分があるので、そういう意味では、一方からの見方だけではなくて、双方の見方で「そういう問題がある」という課題を共通認識できるという機会はできるだけ多くあるほうが良いと私は思います。</li> <li>・特に土木事務所へ行くと、住民から意見を聞くのですが、最初はお怒りで来られていても、話していくうちに「そうだったのか」と理解していただける。本当はみながそう思っていたけるといいのですが、なかなかそうもいかないのが、河川レンジャーが、間に入って、中継ぎという意味でしていただける機会は非常に有意義なのではないかなというふうに思います。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> <li>・本題とずれるかもしれませんが、今も話がありましたが、住民からいろいろ話があるということで、河川事務所と住民との直接の機会というのはどのようになっていますか。</li> <li>・私が県庁にいたときは土木事務所へ行くと、目の前に守備範囲が広い。県で持っている川は多数あり、道路もたくさんある。ですから苦情も頻繁に来ます。河川事務所だと、瀬田川の範囲と野洲川ですね。はた目に見ていると、どの程度要望が出るのかなというようなこともあるのですが。</li> <li>・ただ、行政と住民をつなぐというレンジャーの役割に関係することですが、住民側からすると「ここはどう？」と言いたいことは結構あるのではないかとこの気もする。事務所への情報提供について、その辺はどうですか。</li> </ul>
	△奥野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に、琵琶湖河川事務所の中に、堤防や、そういったものを管理している部署として瀬田川出張所や野洲川出張所がございまして、そこを窓口と</li> </ul>

	<p>して住民からの意見を述べられることが多いと思います。例えば、きょうごみが落ちているよや、そういった細かいことから、草を刈る時期については、早く刈ってほしいなど、いろいろな意見が上がってきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あとは、河川愛護モニターという制度を設けております。これは、住民視点から、河川の状況に変化があれば気づいた点を連絡してもらおうという制度を設け、意見を聴取する。それは、住民からの意見といったところもあるのですけれども。</li> <li>・河川管理者のほうからは、河川巡視ということで、週2回とか3回、川を巡回して異常箇所を点検しております。それは委託でお願いしているのですが、その河川巡視員といますか、点検している社にも直接要望などが寄せられることがありまして、そういったことは逐次出張所や監督職員に連絡されるというふうな仕組みづくりをしています。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その辺を逐一整理してというのは大変ですが、「こういうことがある」ということをレンジャーと共有してもらおうと、活動の参考になる部分があるかもしれない。例えば、野洲川のこの辺に関することとか。</li> </ul>
△奥野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、わかりました。</li> </ul>
平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今のことに関連して、私が瀬田川で活動していたときに聞いた声のイメージでは、住民の意見や声には、激しい苦情のものや、誰に伝えればよいかわからないもの、一応共有しておくものなど、いろいろ種類がありました。例えば、なぜ瀬田川には外来魚回収ボックスがないのかや、なぜベンチがないのかと。そういうのはどこに言ったらいいかわからないですし、誰がどう答えるのかというところが曖昧なので、そこをレンジャーが説明できるところはして、「それはあそこに連絡すればいいです」というようなことをつないでいくのがレンジャーの役割の一つだと思って瀬田川では活動していました。歩いていると「わざわざ言いに行くほどでもないが」「わざわざ電話をかけるほどでもない」という声が聞こえるので、そういうことはレンジャーが伝えていくことかなと思いました。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。ほかに何かございませんか。</li> </ul>
大野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施の形式はすごくよくなったということで、来年度以降もこれでいいかと思いますが、実施の時期がこれでいいのかというのはもう少しレンジャーの方の意見を伺いながら検討してもいいのかなと。例えば、年間計画を立てる前にやったほうがよりよいのかもしれないですし、そこは少し検討したほうがいいのかと。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうですね。それはこの運営委員会の時期自体もそうですけれども、例えばレンジャーの計画の承認が後追いになっているというのもレンジャーにとってはあれなので、その辺は支援室と事務局で一度相談をして、年間スケジュールもうまく立てられるように努力しましょう。</li> </ul>

	△島中	・はい。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、意見交換会についての議題はこれぐらいにさせていただいてもよろしいですか。レンジャーからは後で個々に報告させていただきますので、その中で追加のお話があればいただければと思います。</li> <li>・では、事務所とレンジャーとの意見交換会の議題についてはここまでとさせていただきます。</li> </ul>

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
5. 審議 (1)河川レンジャー年間活動計画書(案)について	中谷	・次は、審議事項になります。1番目はレンジャーの年間活動計画書(案)についてですが、事務局から説明をお願いします。
	△島中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、審議事項の1つ目といたしまして、河川レンジャーの年間活動計画に関する審議をお願いします。</li> <li>・先ほど任命式をとり行っていただきました水上レンジャーの年間活動計画(案)ができ上がってまいりましたので、本日ご説明いただきまして、ご承認いただけるかどうかのご審議をお願いしたいと思います。</li> <li>・資料につきましては、お手元の資料4-1と、もう一つ「『行政と住民が共に考える川づくり』をめざした河川レンジャー活動」というカラー刷りの補足資料でご説明をいただきたいと思います。</li> </ul>
	中谷	・それでは、お願いします。
	R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、最初に、全体のイメージをまとめていますので、私の活動のテーマに沿った説明をさせていただきます。</li> <li>・テーマは、一番上に書いていますように、「行政と住民が共に考える川づくり」です。それを目指した河川レンジャー活動のイメージを最初に説明させていただきたいと思います。</li> <li>・いつもよく出てきますが、河川レンジャーは何かというと、行政と住民、企業の間で介在して、こういうふうにつなぐと。そして、つなぐことによって、最終的に行政と住民がともに考える川づくりができる。いつも行政だけで進めていると皆さん思われているかもしれませんが、そうではなく、両方をつないで、いい川づくり、住民と行政がともに考える川づくりをしたいと思います。</li> <li>・そのつなぎ方ですけれども、なかなか難しいことですが、それぞれのミッション(WIN)がいろいろあると思うので、そのWINとWINをつなぐことによって川づくりできないかと考えています。</li> <li>・それも、地域住民だけでなく、企業や地元中学校。中学校はすこしレベルが違うと思いますが、私も行政時代にやってきました、今現在、根木山レンジャーから引き継いでいこうというところもありますので、ここに位置づけました。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業は、今、CSRがはやっているというか、社会貢献というところであまりくつなげられればいかと。地元中学校は、自然体験の場、環境教育の場など、環境のいろんな整備ができてい中でできればいかと。そして、地域住民は水辺に近づける野洲川など。これは、意見交換会のときに行政もこういうところでいろいろ課題を持っているということを知ったので考えています。</li> <li>・もう一つは行政。ミッションは、まず住民参加。住民と一緒にやっという川づくりを整備計画でうたっています。それから、川への興味を持ってもらい、川の認識を高めること。特に、遊ぶのはいいけれど、川は非常に危険だということを知してもらわないといけないので、そういうところも高める。そして、住民による河川利用をしていただきたい。そうすると、川に近づいて、楽しい川づくりができるのではないかと。こういうWINをつなぐということで考えています。</li> <li>・これは五、六年かかってやる予定ですけども、この後、そのロードマップ的な計画も詳しく説明させていただきます。</li> <li>・それでは、お手元の計画書を見ていただきたいと思います。</li> <li>・まず、背景です。私は、行政時代から、川は住民の宝であって、できるだけ多くの人々に川に関心を持ってもらい、そして川に直接ふれてもらい、川のことをみずから考えてもらうという行動をしてもらえるような「住民参加の川づくり」に取り組むべきだと思っていました。そのためには、行政と住民がともに川づくりを考えることが重要だと思っています。</li> <li>・実施目的ですけども、ビジョンとして、まず野洲川が多くの人の活動場所にならないといけない。野洲川というのはなかなか近づくことができません。行政も川に近づけるようにしていますが、野洲川が多くの人の活動場所となると。そして、その活動場所の中で、住民が川づくりに参加できるような仕組みができると。それができたら、次に住民と行政がともに考える川づくりの仕組みができる。その仕組みができた後に、最終的には、私の最終目的である、住民と行政が連携した住民参加の川づくりが実現するというので、このようなビジョンを考えています。</li> <li>・では、どうやっていくかということで、ミッションです。非常に広いものですから、3つのテーマを考えました。1つは、先ほども出ていました地域住民参加の川づくり。もう一つは、地域住民だけでなく、企業参加の川づくり。それから、これは現在進めている、地元中学校参加の川づくり。これも含めてやっていきたいと。</li> <li>・これらは、とても1年ではできません。任期内でもできないかもしれませんので第1段階、第2段階、第3段階ということで順番にやっという、最終的に実現するように考えています。</li> <li>・第1段階は、先ほど委員長からお話があったように、私は行政のネットワ</li> </ul>
--	--

ークはあるのですが、地域住民とのネットワークが余りありません。まず地域住民とのネットワーク（信頼づくり）を今年度は構築する。そのためには、地域住民のヒアリングや野洲川を知ってもらうための出前講座を行います。野洲川の話をして、地域住民の方から野洲川の思いを聞くというところから始めたいと思っています。ただ、先ほども言いましたように、地域住民だけでなく、企業への信頼関係づくりも同じように構築したいと思っています。一方、行政時代にやってきた、根木山レンジャーからの引き継ぎの部分ですが、野洲川河口部のヨシ帯調査については現在大分進んでいますので、地元の中学生と行政が連携した住民参加の川づくりの先進事例となるような新たな活動を模索したいと。これがどのような先進事例かというのは、後で詳しく説明をさせていただきます。

- それを進めることによって何とか今年度で信頼関係がつくれれば、時期は少しずれるかもしれませんが、第2段階として、住民と企業が川づくりに参加できるような仕組みを作っていきたいと思っています。それは、第1段階で構築したネットワークをうまく使って、住民の思いと行政の思いをつなぐ活動の計画を立てます。そして、地域住民が川づくりに参加できる仕組みづくりをまず試行します。一方、企業が川づくりに参加できるような仕組みづくりも試行します。あくまでまだ試行の段階であって、試しにやってみるということです。あと、野洲川河口部のヨシ帯調査については、大分熟成してきましたので、野洲川河口部住民と行政が連携した川づくりの先進事例となるように発展させるということで、これは2018年度に終わるような形で持っていきたいと思っています。
- このようにネットワークをつくり、企業が川づくりに参加できるような仕組みづくりをした後、第3段階として、野洲川において住民と行政がともに考える川づくりの試行をしていきたいと考えています。
- 今年度の目標ですが、住民とのネットワークづくりをまず始めます。そして、野洲川河口部については先進事例となるような新たな活動を模索します。
- 内容ですが、住民とのネットワーク（信頼づくり）を構築するということで、まずヒアリングと野洲川を知ってもらうための出前講座を行い、できるだけ多くの住民の方に野洲川の思いを聞きに行きたいと思っています。これは意見交換会で行政からも出てきましたが、地域住民の潜在ニーズの掘り起こしが課題になっているということで、そこもすこし乗り込んで、地域で活動をしたいと思っています。そして、住民だけではなく、企業への信頼関係づくりということで、野洲川に関心を持っている企業の潜在ニーズの掘り起こしもしたいと思っています。
- ちなみに、先週と今週にかけて、まず野洲市、守山市に出前講座の登録をしました。企業につきましては、10月4日に地元の企業に一度ヒアリング

	<p>に行く予定をしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一方、野洲川河口部ですが、一緒にやってきたのですけれども、今は行政主体です。それを住民が主体になるようコーディネートをして、川づくりの先進事例となるような新たな活動を模索する。そして、立命館守山中学校の思いと河川事務所の思いをつなげていきたいと。それはどういうふうにつながるかという、YRPと言っている意見交換会があるのですけれども、そこでお互いの思いを聞き、新たな活動を模索する。これも、今現在、中学校の先生と調整して、10月には意見交換会を実施する予定です。</li> <li>・対象としては、住民と企業、河川管理者である琵琶湖河川事務所、それから立命館守山中学校ということで考えています。</li> <li>・工程計画ですが、8月は野洲川河口部をどう進めていくかについて立命館守山中学校の先生へヒアリングをさせていただいています。9月は、実際に出前講座の登録やヒアリング等に行っています。その後ずっと続け1月に全体のとりまとめをして、2月に考察をし、その結果を受けて、来年度に向けた新たな取り組みや活動を考えていきたいと思っております。</li> <li>・以上で説明を終わらせていただきます。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございました。それでは、委員の皆様、今、発表をいただいた計画について、質問、ご意見等々をお伺いします。どなたからでも結構ですので、どうぞ。</li> <li>・見ていただいている間に私から。「川づくり」という言葉がいっぱいありまして、一言であるけれども、範囲は非常に広いと思うのです。例えば住民とつなぐ川づくりというのは、具体的に言うと、今、水上さんはどんなものをイメージされていますでしょうか。</li> </ul>
R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「川づくり」というと、皆さんは、護岸をつくったり堤防をつくったり、川の施設をつくるのを一緒にやりませんかということを思われます。確かにそういう活動をしておられる方もいますが、それは、どっちかという、行政任せと言うたら悪いですが、その意見をいただくと。そうではなく、例えば川の利用。本当に広い川づくりで考えると、川を利用するとか、川の資源があります。木とか、そういうのを使ったものとか。あと、川を守る。というのは、例えば草刈りをするとか。もう一つは、川から自分を守る防災です。そういう何項目かはメニューを考えています。そのメニューを全部やるのかという話になりますので、それは今から10月・11月にかけてヒアリングをします。それを受けて、そのニーズに合わせてしようと思っています。</li> <li>・それで、私が今思っているのは、最初は利用のほうです。野洲川は川に近づけなかったのですが、行政が近づけるように、サイクリングロードを整備していますので、その利用のほうで川づくりを皆さんと一緒にできないかと。行政とつなぐことができないかというのを考えています。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>私は「利用」と思っていますが、住民の方々が「こうだ」といろんなニーズを言われたら、そこはそのニーズに対してのメニューを考えていくべきだと思っています。</li> </ul>
平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>今のに関連して、ビジョンの3番目ですけれども、「ともに考える川づくりの仕組みができる」というこの「仕組み」の具体的なイメージをお伺いできますか。</li> </ul>
R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>それは非常に難しいです。いろんなヒアリングをしてからでないと仕組みを考えられないというのが本音です。行政の方も一緒でしたが、物すごく大きな課題です。とりあえずはニーズを聞いて、住民と行政のニーズ同士を。さっきも言いましたWIN・WINです。これをうまく利用して使えればいいなと思っています。それをどうするかというのは、まだニーズが聞けていないから、わからない。住民の方々のいろんなニーズを聞いて、どちらかという、それを主体的にやっていきたい。私は中立の立場ですけれども、行政主導型でなしに、主に住民主導型でできるような形でうまくつなげればいい。そういう仕組みができればいい。</li> </ul>
平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>コメントですけれども、任期は一応いつまでと決まっています、継続もされると思うのですが、レンジャーがいなくても行政と地域の方が考えられるとか川づくりがうまく進むような仕組みというのが、すごく難しいですけれども、必要なのかなと思っています。</li> </ul>
R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>まさに、平山委員が言われたように、野洲川の河口部がそうです。もう4年も5年やって、やっとひとり立ちできるようになりました。確かに任期2年では大変です。私も高齢ですからいつまで生きられるかわかりませんので、そこは命が続く限り頑張っていきたいと思います。それが問題ですね。だから、そこは頑張っていきたいと思っています。</li> </ul>
北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>少し補足で伺いたくて質問します。出前講座の実施ということで、活動計画でもツールを整理されたり進めていらっしゃるのを拝見しているのですが、たちまち9月から予定に入っているのでコンスタントにいけたらなというご想定なのかなと思うのですが、出前講座先というか、どういうところに向けて。例えば、個人の集会みたいなものにも行かれるのか、自治会みたいなのに行きたいなとか、何かそういうふうなイメージがあれば教えていただきたいと思うのですが。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>あわせて、ヒアリングも具体的にお願いできれば。</li> </ul>
R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>出前講座は、守山市さんのレークセンターで出前講座の募集があつて、早速その登録手続きをしています。</li> <li>もう一つは、野洲市市民活動支援センター。そこはこのウォーターステーション琵琶のように施設を貸していて、人が集まってくるのですが、担当者に話をしたら、施設に掲示板があるのですが、実際にそれで募集ができますよとか、その施設でやっている人から「私の講座で少し時間をとつ</li> </ul>

	<p>でもいいですよ」ということを聞いてきました。非常に話のわかる人というか、いい人だったのですが、そういうのでやっていきたいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一方、企業のほうは、根木山レンジャーのほうでいろんな情報収集をされていたので助けていただいて、イマックという会社ですけれども、そこが非常に河川のいろんなことをやっておられるので、10月4日にヒアリングに行く予定にしています。あと、テレビを見ていたときに、野洲川の水質の環境をしていて、それにスポンサーがついていたのです。滋賀銀行など。そこへ電話したのですけれども、そういう活動はないということで、そこは無理かなと。</li> <li>・とりあえず、今は、企業も含めて、いろんなところへ電話をしています。</li> <li>・もう一つは、野洲の支援センターの方から、清掃活動をされている自治会に行くと野洲川にも来てもらえるようにしたらいいですよという助言もいただきました。熱心な自治会があるらしいので、そういうところに行って。ただ、1人ですので地道な活動になりますし、あと7カ月しかないので少し延びるかなと思っていますが、そこはとりあえずやるべきだということで、時間を見つけて、できるだけたくさん行きたいと思っています。</li> </ul>
水草	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我々も、パブリックコメントや住民説明会、公告を打ったりと、いろいろなツールで住民意見を吸い上げてはいるのですけれども、大体そういうので出てくる意見というのは意見を言いたい人の意見だったりとか、もしくは、住民説明会という形で地方に出回っていても、家長さんが出てきてしまって、その裏にいるお子さんや主婦の方々の意見というのはどうしても出てこない。アンケート調査をしてもあんまり出てこなかった。</li> <li>・「我々河川管理者が手を出したいけれども、なかなか情報を上げられないところをどうするか」、そこをつなぐということでレンジャーが位置づけられているのだとすれば、我々が着目したいのはいわゆるサイレントマジョリティー。そこが一番パイが大きいはずなので、何も興味がない人の意見をどう吸い上げるか。サイレントなので、そこに注力することは我々も非常に難しい。そこで地場に突き刺さるような活動をしていただければ、そこに期待したいところです。</li> <li>・例えば、自治会のイベントに出張るというのも一つキーワードはあるかと思っています。好きこのんで自治会をやっている方もいらっしゃるのですが、残念ながら、好きこのまない人も強制的に参加する強制的な場もあるので、先ほどの学校教育の場もそうなのですけれども、「強制的に」という場をうまく使うというのはあるかもしれません。そういったところの工夫というか、そこも期待したいところなのですけれども。</li> </ul>
R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まさに、所長が言われたように、野洲市の支援センターでヒアリングしたときに、あそこに集まっている人は声の大きい人がいっぱい来ると。サイレントマジョリティーはやはり必要ですと言われていました。それは、私</li> </ul>



		にとっても、行政時代からの非常に大きな、難しい課題です。けれども、今度は住民の立場でできるから、割と動きやすいと思っています。そこは考えて、また相談させていただきます。よろしくお願いします。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ほかにいかがでしょうか。手続的には承認をするということになるのですが、今見ていただいている計画書なり資料については、修正等はまずないと思います。委員の方からのご意見も踏まえて、具体の活動に生かしてもらえればと思います。</li> <li>• そうしましたら、この活動計画書はこれでもって承認させていただいてよろしいですか。では、そのようにさせていただきます。事務局もそれよろしいですか。</li> </ul>
	△畠中	<ul style="list-style-type: none"> <li>• そうですね。そうしましたら、承認ということですが、きょうのコメントも整理してレンジャーのほうにお伝えさせていただいて、また年度末の委員会、今年度3回目の委員会でそれをどう踏まえられたかという形でご報告いただければと思いますので、よろしくお願いします。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ありがとうございます。</li> </ul>
	R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>• どうもありがとうございました。</li> </ul>

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
5. 審議 (2)河川レンジャー中間活動報告の発表	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 続きまして、各レンジャーの中間活動報告の発表に移らせていただきます。事務局のほうで進め方なりを説明していただいて、進行をお願いします。</li> </ul>
	△畠中	<ul style="list-style-type: none"> <li>• それでは、3名のレンジャーの皆さんに中間報告をしていただきます。根木山レンジャー、北村レンジャー、眞田レンジャーの順番でお願いしたいと考えております。お手元の資料4-1、4-2、4-2をごらんいただきたいと思います。</li> <li>• 委員の皆様には、資料番号は振ってないのですが、コメントを書くシートをお配りしております。それぞれレンジャーさんのお名前が入っております。右側にコメントを書いていただく欄がございます。これまでの委員会と同じく、これはあくまでメモとしてお使いいただくものと理解しております。最終的には、委員会でのご発言、ご質問を事務局で取りまとめ、レンジャーにお伝えするという形をとりたいと考えております。</li> <li>• お手元の資料5のシリーズですけれども、「背景と昨年度の課題」「実施目的」は活動計画書に書かれている内容でございます。次の「今年度の成果目標とこれまでの達成度」に関しましては、各レンジャーさんにそれぞれ自己評価をしていただいております。太字で囲ってあるところに関して、どんな成果があったかという具体的な内容とA～Fまでのランクづけをみずから評価していただいているという内容になっています。</li> <li>• 先ほどのコメントをいただくメモですが、「これまでの成果」というところ</li> </ul>

	<p>ろで、成果目標に対して的確な取り組みが行われているかどうかとか、評価をしていただく視点を挙げております。この評価の視点に関しましてはこの委員会の中でご審議いただきまして、こういう視点を持って中間報告、それから最終報告のときにレンジャー活動を評価していこうと。そして、この視点に即してレンジャーの皆さんにコメントをお伝えしようということで決めさせていただいた内容です。10分の報告の中でこれを網羅的に見ながら的確にコメントを書くというのは作業として難しい部分があるのですが、レンジャーの皆さんにはこの報告書に即してご報告いただきますので、そこから特に気になった点を中心にメモしていただいて、後ほどご質問していただくなり、意見交換をしていただくなりという形でお願いできればと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、根木山レンジャーから10分間の説明をいただきます。1分前にベルが鳴りまして、終了のときに2回ベルが鳴りますので、それを目安にご報告いただきまして、その後、また10分程度で委員の皆さんから質問をいただければと思います。</li> <li>・説明としては以上です。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、始めていただきましょうか。</li> </ul>
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川レンジャーの根木山です。よろしくお願いたします。</li> <li>・きょう初めての委員さんもいらっしゃるので、中間報告ですけれども、初めに少しだけ活動の説明をしたいと思います。きょうはパワーポイントが用意できなかったもので、資料は所定の報告書と、あと追加で委員さんのお手元には「あめんぼうサポート隊 隊員募集！」というチラシと、A3のヒアリングをした結果のまとめ、これは河川事務所にも情報提供したものですけれども、それをお配りさせていただいております。</li> <li>・私は、「野洲川の川守りをつなぐ」というテーマで、もう既に5年目に入っております。4年間活動させていただいたので、その成果も踏まえて、ことしの活動をしております。</li> <li>・活動フィールドは守山市の中洲地区で、野洲川でいうと最も下流側のエリアになります。かつては南北流分かれていたところを、国の事業で放水路をつくったエリアになります。</li> <li>・かつては暮らしの中に野洲川があって、それが当たり前だったのが、放水路ができたことで大きな川になって、なかなか近づきにくくなったという住民さんの声が長年ありました。それを受けて、近年、守山市と琵琶湖河川事務所による「かわまちづくり」という水辺整備計画の事業が進められています。</li> <li>・それに同伴するような形で、住民も野洲川を頻繁に利用して、かつ、かつてのように自分たちの川だと思って維持管理の活動もできるような、そういう野洲川を目指して活動をさせていただいております。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の成果目標のところになりますけれども、具体的には4つの軸で活動しております。</li> <li>・1つ目が、もう既に3年目になるのですが、野洲川で活動をする住民グループの支援をさせていただいております。これに関しては、もう既に2年間活動して立ち上げのほうは進んできたので、今後2年間かけて、レンジャーがかかわらなくても住民主体で動いていくような形に運営体制をシフトしていくことを目標に置いています。これに関しては、今のところ、一定いいスタートが切れているというふうに自己評価をしています。</li> <li>・2番目は、住民有志とは別に、自治会をベースにした中洲学区の住民たちが野洲川を利活用していこうという取り組みがありまして、そちらにもオブザーバーでかかわっており事務局の中洲会館の方々とも情報共有しながら取り組んでおります。実は、こちらのほうはことし苦戦しております。事務局との情報共有はばっちりなのですが、当の住民委員さんとの関係構築が十分し切れていないので、今苦戦しているところです。</li> <li>・3つ目は、実際水辺整備が進んできて、昨年度から暫定供用が開始されていますので、昨年度に引き継ぎ、利用者のヒアリングをしています。その一部結果がお配りしている資料になります。この辺は河川レンジャー支援室にも支援をいただいて、一定昨年度よりも多い声を聴取できているかなと思っております。</li> <li>・4番目が、さっき水上さんの計画の中にも入っていましたが、私がレンジャーになる以前から先輩レンジャーが始めた活動で、河口部のヨシ帯再生プロジェクトがあります。それを私のほうで引き継いでおりまして、年度当初は、まだ水上さんがレンジャーになられていなかった状況でしたので、私一人がかかわっていました。これに関しては、水上さんがレンジャーになられたということで行政を含めて少し情報共有もさせていただいて、今後は、2人体制でやるのですが、水上さんのほうに主でかかわってもらおうかということで合意しております。</li> <li>・具体的に何をしたかということをもう少しご説明させていただきます。</li> <li>・住民有志のチームのほうは、まず4月に「今年度からやり方を変えます」ということをしっかりミーティングの中でお伝えして、それでもやるかどうかをお話しさせていただいた上で、希望する保護者の方にも運営に入らせていただいているような体制になりました。多少ドキドキしたのですが、割といいスタートを切れて、今は保護者の方も現場に来てくださって、できるようになりました。</li> <li>・活動内容も、昨年度までは割と僕のほうで絵を描いて進めていたのですが、何がやりたいのかを子供たちにも聞いて、それを保護者がサポートして実現する方向で運営が行われています。</li> </ul>
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的には、子供たちがいかだ下りに出たいと言ったので、7月のいかだ下りに「やすたん」というチームで出たというのと、あと8月は川遊びをしたいということだったので川遊びをしました。これに関しては守山市の助成金も獲得することができました。住民メンバーの方にはプレゼンにも行ってもらいまして、審査も経験していただきました。</li> <li>・やすたんの従来のメンバーではない方も来てもらえますよという形で8月と9月に2回実施したところ、1回目が子供12人、大人もサポーターで7人、2回目は子供が19人で、大人も見守りで12人参加していただきました。やすたんの従来のメンバー以外の参加者も口コミで少し広がって、よかったなと思っています。</li> <li>・この後は、自分たちで野洲川図鑑をつくりたいと言っているのですが、それを進めていって、去年と同じなのですけれども、また県の大会に出て発表すると。子供たちは今年度も東京へ行くぞと張り切っていますので、応援したいと思います。</li> <li>・1番目は割とスムーズにいつているのですが、2番目の苦戦しているところを少し紹介させていただきます。</li> <li>・お配りしたチラシは、中洲学区の取り組みに関連する資料です。9月にこのチラシが既に配布されていて、中洲学区では、有志のこの「あめんぼうサポート隊」というのを組織して、野洲川の利用と維持管理をしていこうという計画になっています。会議には参加して、求められれば意見もさせていただきます。ただ、昨年度来、大阪の寝屋川に視察に行ったのがきっかけで、「こういうものは自治会ベースの義務で出ている役員でやるのではなく、有志で組織してやらなければいけない」という気づきはお持ちなのですが、これが本当にうまくいくのかどうかというところを少し心配しながら寄り添っているところです。</li> <li>・具体的に言うと、今年度も河川利用するイベントをしようということで、事務局ベースではカヌーとかをするのかなという話をしていたのですが、実際蓋をあけてみたらたこ揚げ大会になってしまったみたいなオチがあったりして、その辺が難しいなと思いました。事務局だけではなく、委員さん自身とも関係を構築しないと、こちらの思いというか、川ならではの利用みたいところを共有していくことは難しいのかなということで、今後の課題とさせていただきます。</li> <li>・利用者のヒアリングのほうは、いかだ下りのときが一番来場者が多いということで、その機会を捉えてヒアリングをさせていただいて、40の方々から意見を聴取することができました。それをこういう表にまとめて、野洲川出張所長を通して情報提供をさせていただいております。この後、僕らのほうも詳しく情報を見ながら出張所長さんや工務課との意見交換はしたいなと思っていますけれども、きょうは情報だけ提供させていただき</li> </ul>
--	--

	<p>ます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河口部のほうは、中学校を中心にスケジュールが組まれていくので本業を持っているレンジャーが1人で対応するのは結構大変ということで、昨年度来2人でできるといいなと思っていたのですがけれども、水上さんと相談の上、2人体制でできることになりました。かつ、水上さんが主になってくださることになりました。僕がかかわらないということではないのですが、2人体制の中で水上さんが主でやっていきたいと思っています。年度当初は人事異動があり大きな変更があったのですがけれども、おかげさまで、そこはうまくつなげたかなというふうに個人的には思っています。</li> <li>・今後に向けてですがけれども、今年度というだけではなくて、少し先を見ると、あめんぼうも整備されて、自転車道もこの後整備されてくると思うので利用するためのポテンシャルがすごく高まっていくと思うのですがけれども、そのポテンシャルを住民さんとどう共有していくのか、そしてそこを守山市や河川事務所の各部署とも情報共有しながらどういうふうにしていくのかというのが課題だと思っています。</li> <li>・ありがとうございます。（拍手）</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表いただきまして、ありがとうございます。それでは、委員の皆様から質問、ご意見等々伺います。どなたからでも結構ですので、どうぞご発言ください。</li> </ul>
平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表、ありがとうございます。この意見とルールを見て、初めて具体的にわかってきたのですがけれども、まず1つ目は、このルールではいろいろなことを厳しく禁止して、利用に制限があると思うのです。一方で、こちらの地域の声は「こういうことをしてみたい」「こういう接し方をしたい」ということで、双方で合わないところが多いと思うのです。</li> <li>・もう一つ疑問は、これは草刈りをする人を募集していると。利用を考えるのではなくて、維持管理、みんなが嫌だなと思うところをボランティアでやってくれる人を募集していると。もちろん、これは根本山さんの活動ではないので、それに対してどうこうではないですが、こういう現状に対して、河川レンジャーだとか今ここでかかわってもらっている地域の方が今後ルールと一緒に考えようだとか、維持管理だけではなくて一緒に遊ぼうみたいな、そういうことが要るのではないかなと。これは感想です。もし今のことで何かお考えがあれば。</li> </ul>
R根本山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まさに、そこが課題だと思います。守山市も幾つかの部署があつて、建設管理課というところがつくったルールなのですがけれども、やっぱり予防線を張っていて、基本的に「禁止」「禁止」「禁止」なのです。これに忠実に従うと、何もできないではないかと。ヒアリングにも出ていましたけれども、忠実に読むと、そうになってしまうのです。ただ、そんなに厳密に運</li> </ul>

	<p>用されているわけではないので、完全にやれないことはないだったりとか、あと、占用のエリアはあくまでも高水敷までなので、寄り州でのことを禁止するルールではないので。「釣りは禁止です」と書いてあるのですけれども、釣りをするのは占用エリア外なので、別に寄り州で釣りをするのにその人たちには権限はないのでというのはわかっているのですけれども、予防線を張っておかないと「迷惑行為があると困る」みたいなのがあって。だから、ここの場所を誰が責任を持って主体的に利用して、かつ守りをしていくのかということところがまだはっきりしていなくて。それがあめんぼうになるのか、それともやすたんみたいな有志チームから派生したものになるのか、そこははっきりしていないので、そこが今後どうなっていくのかなというのを寄り添いながら情報提供とか。先ほども言いましたが、ポテンシャルはすごくあると思うので、そこに気づいてもらった人が少し覚悟を持ってやろうとなると、おもしろい方向に行くかなと思います。</p>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用面においては、「ルール」と書いておきで、こういうことはどこでもあると思います。例えば、ここは公園ですが、中州でバーベキューをしたとか、そういうのを見つけたなど、そういうことを地元の人あまり言っていないですか。</li> </ul>
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば、去年、やすたんは、寄り洲でレストランをやるのに火はおこしています。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そういうイベントとしてするのはいいけれど、例えば「駐車場もできて、いい場所やから、川の中へおとりで遊んで帰ろう」みたいな、そういうケースは。</li> </ul>
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふえてきていると思います。9月10日に川遊びをしていたのですが、そのときもバス釣りの人たちが橋の下の寄り洲のところでバーベキューをしておられたと思いますし、僕らが帰るころにきた家族連れもそういうグッズを持って寄り洲におりていかれたので、多分されるのだろうなと思って見ていました。逆に、制限しても、少しずつそういう利用は出てしまうのかなというのは感じています。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「来たときよりもきれい」ぐらいになるといいのですが、逆のケースがふえてくると困るという感じですね。</li> </ul>
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうです。ルールなのか規範なのかわからないですが、どういうふうにつくっていくのかというのがまさに醍醐味なのかもしれないですが課題だと思います。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・逆に、できるエリアを区切って、幾らかお金を取るといようなケースもあったりするのですけれども。</li> </ul>
平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・でも、営利目的はだめなのですよ。</li> </ul>
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その辺も守山市の建設管理課の意識のありようかと。河川事務所と意見交</li> </ul>

	<p>換会をしていると、河川事務所のほうは河川法の運用の仕方が少しずつ変わってきているということをおっしゃってくださっているのです、従来の考え方より少し柔軟にということは思っています。その辺は、誰かがやりたいや責任を持っていい感じにやりたいという人が出てくると、具体的に行政とも「このルール、おかしいね」とか「もうすこし柔軟に運用できませんか」という調整ができるのですけれども、まだそこまで行っていないという段階だと思います。</p>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>先ほど聞かせていただき、やすたんで口コミで広がっていると。そういうことが大事で、仕掛けて集めて一過性のイベントで終わるより、そうやって地道に自分たちのしたいことを含めてうまく広がっていくことがいいと思います。「行くな、行くな」と言うより、子供の安全面を考えて、「遊ぶのであれば、ライフジャケットを必ずつけなさい」や、すこし流れてみてレスキューの経験をするという方向も含めてしてもらいたいと思います。</li> <li>あと、水上さんの活動にもかかわる話だと思うのですが、野洲川の近くで「昔は危ない川で、ここは必ず切れた」というところにはお社があり、根木山さんにもよく言ってもらった「おつぶさん」の話など、そういうところを用いて、じわっと広めてもらいたいなと思って聞いておりました。</li> </ul>
大野	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の一つの大きな柱として出しておられた「住民主体で」というところがどんどん達成されているのを伺って、大変すばらしいと思いながら聞かせていただきました。</li> <li>これは単純な質問ですけれども、40人の声を集められたというのはアンケートですか、ヒアリングですか。未記入というのもあったので。</li> </ul>
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>一応、位置づけとしてはヒアリングでしているのですけれども、僕だけではなくて支援室にもご協力いただいているので、運用上、そこは徹底が。</li> </ul>
大野	<ul style="list-style-type: none"> <li>なるほど。聞き取られた方が書いていなかったと。</li> </ul>
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>はい、そうですね。</li> </ul>
大野	<ul style="list-style-type: none"> <li>これはすばらしいと思うのですけれども、全体的な傾向とかを今後分析される予定はありますか。例えば、近くの方はこういうのを望んでいるとか、大津から来た人はこういうのを望んでいるよとか。そういうのがいろいろできそうだなと思ったので。</li> </ul>
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>そこまで思いが回っていない部分はあるのですけれども、支援室の技術者の方にも相談して、できることはしたいなというふうに思います。逆に、アドバイスというか、何かヒントをいただけたら、それを手がかりに作業を。</li> </ul>
大野	<ul style="list-style-type: none"> <li>はい。私も、これを見ていて、こういう分析をやったらもうちょっと全体の傾向が見えそうだなというのがあったので、また後でお願いします。</li> </ul>
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>はい、ありがとうございます。</li> </ul>

中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうですね。住んでおられるところも、守山だけでなく、京都とか、そういうところもあるし、川筋の堤防が見える範囲に住んでいるのかどうかでおのずと変わってくるのかなという感じですね。年代も結構ばらついているけれども、30代から40代の人が多いのかな。</li> </ul>
大野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多いですね。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要は、子供が来ているから親が来ていると、そういうことですね。</li> </ul>
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、そうですね。いかだ下りは子供がメインのプログラムなので、県外からという人も中にはいらっしゃいました。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員の皆様、よろしいですか。それでは、発表、ありがとうございました。頑張ってください。</li> </ul>
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、ありがとうございます。</li> </ul>
△畠中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。引き続き、北村レンジャーをお願いしたいと思います。</li> </ul>
R北村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北村です。よろしくお願ひします。</li> <li>・今年度の前半の活動報告として中間報告を簡単にまとめさせていただきました。今回も活動の分野を大きく3つに分けて実施していますが、あくまで前半のこれまでの活動に対してどうだったかというのを自己評価しています。夏前後は頑張ったと思うので、評価を少し高めにつけさせていただきました。</li> <li>・簡単にパワーポイントにまとめましたので、前をごらんいただいたらと思います。</li> <li>・今年度の活動ですが、昨年度から継続して、地域の皆様のご自宅にお伺いして、アルバムの中から昔の写真を集め、当時川とどんなふうにご過ごしてこられたかというお話を聞かせていただいたり、地域の方にご協力いただいてその写真の場所を特定したり、地域の方が川とどんなふうにご接してこられたか、川とどんなふうに向き合ってこられたかを写真を媒体としながら少しずつ調査・記録し、それを活用するような活動を続けています。</li> <li>・今までは集めることに重点を置いていたのですが、今年度は、集めることプラスアルファ、それを活用し、新しい展開ができないかということに少し意識しながら取り組んでいます。</li> <li>・新しいものとしては、関係団体、これまでご縁があった団体さんとのネットワークというのを意識しながら重点的に構築しております。その中で、自分のこれまでの活動、ヒアリングや古写真収集という活動をどんなふうにご結びつけていけるのかなということを探求していきたいと思って活動を始めています。</li> <li>・ミッションとしましては、これまでのお話の中でもあったのですが、地域の方と一緒に活動することで任期が満了して私が河川レンジャーとして活動ができなくなった後も継続して地域の中で続けてもらえるよう</li> </ul>



に、活動の支援のほうに少しずつ移していきたいと思っています。

- ・ここまでだったら集めたり残したりだけですけれども、それを行政の方、河川管理の方たちにうまく活用してもらえるように、また、地域の方たち、これまで河川に余りかかわってこなかったような方々、大きく声を出してこられなかった方々がお話しするときのきっかけづくり、一つのネタとして使ってもらえるようにまとめていけたらいいなと思って、そのようなツールの作成も目指していきたいと思っています。
- ・具体的には、1つ目の項目として、河川に関する記憶の掘り起こしと、行政や住民の方との情報共有を目指しています。今回の活動でもここが一番メインとなっているのですが、まず得られた情報を集めて、ここの水のめぐみ館エリア、ウォーターステーションやアクア琵琶、この場を使って情報発信や展示をしていきたいと考えました。ここは、特に土日はすごく集客のある場所です。隣の水産センターの駐車場を見ていると、連休明けから9月の今ぐらいまでなのですけれども、他府県ナンバーで満車になるぐらいの勢いで来られ、こちらのほうにもすごくたくさんの方が来られているというのを日々見て感じています。そのようなウォーターステーションの来館者の方、何かのご縁でここに足を運ばれた方たちに対して、まず川というものに興味を持ってもらえるようなプログラムを実施してみようと思いました。できるだけ月1回したいなと思ったのですが、連休や夏休みなどの集客が多い時期を狙ってやってみました。
- ・まず一つは、小さな子供さんや知識や経験が少ない方にとっては河川の細かいことは難しいので、その前の段階、例えば環境や生物に目を向けてもらえたらと思い、大阪湾でとれているチリメンジャコをテーマにして、その中にある小さなタコを探してもらったりしました。そのときに「前に流れている川がずうっと流れていったら、海まで行くよ」「その中には、まず琵琶湖があって、洗堰があって」という話をしながら、生き物を通して河川の環境や琵琶湖淀川水系全体のイメージをつかんでもらえるようなプログラムをしました。
- ・右側ですが、外来生物にも興味を持ってもらえたらなと思ったので、子供たちもとつきやすいように、瀬田川にいる外来生物をイラストにして塗り絵をしてもらったり、絵を描いてもらったり、ここは水槽がたくさんあるので魚を観察してもらったりしました。あと、塗り絵したものを最後は缶バッチに仕上げるようなこともしたので、ご自宅に帰ってから一緒に来られた大人の方と話を広げられるような、そんな仕掛けづくりをしてみました。来館者が多い時期を狙って開催しているので、どの回も盛況でした。直接的に「では、ここから河川法にどうこう」というところまでは道のりがすごく長いのですが、まず目を向けてもらう、足をとめてもらう、せっかく来た時間を少しでも広げて発展させていきたいと

いう意味で、これからも実施し続けたいと思っています。

- ・掘り起こしがこれまでの活動メインになるのですが、写真を活用したヒアリングの普及と支援という形でおこなっています。これまでも集めた写真を使用し、7月の1カ月間、草津の琵琶湖博物館で展示をさせてもらいました。夏の時期は一番来館者が多いので、1カ月間で3万人弱の入館者数があつたそうです。ここは無料空間なので写真展だけの数はカウントできないのですが、その中の何%の方に足をとめて見ていただけたのではないかと思います。実際、昨年度ヒアリングや集めた写真の成果として薄い冊子をつくったのですが、それも200部ほど配布できましたし、支援室の方にもご協力いただき、時間を見つけてヒアリングをおこない、感想を附箋で残してもらおうような取り組みもさせてもらいました。
- ・私の活動は3年目、2期目になるのですが、ほかの地域や施設の方から「自分のところでもしてみたいので、実施方法やポイントを教えてください」というような問い合わせが写真展の会場でも数件あり、これから継続して活動を発展させていきたいと思っています。
- ・次、2点目ですが、「河川に対する興味関心を高める」と書かせてもらっています。さっきの1番目、来館者に対するアプローチと内容的にかぶっているのですが、私の整理として、自分の活動の成果をより広めていくことやうまく展開していくほうに注力するという形で少しカテゴリーを分けています。
- ・まず、年度末に1年間かけて集めた写真やヒアリング結果についてまとめていきたいと思っており、これから準備をしていこうと思っています。
- ・2点目は、これまで私がおこなってきた調査や写真展にかかわってもらった田上地区のこども環境クラブや土山の資料館を中心としたエコクラブが、自分たちのところでもしてみたいということで活動が地域での広がりを持たせてくれました。田上に関しては、子供たちが同じように、昔の子供の水遊びを地域の古老の方に聞き取りに行っています。それを11月に一つの大きな作品としてまとめるところまでされるそうで、その支援をさせてもらっています。右側の写真は、土山地区の方が、県大の上田先生が中心となってされているふるさと心象図というのがあるのですが、ここからの派生として写真を使って自分たちでしてみたいとおっしゃっていたので、支援をさせてもらおうと思っています。
- ・3つ目ですけれども、河川レンジャーの制度や活動の認知度向上も目指しています。今回、写真展をメディアに取り上げていただいたことで河川レンジャーそのものについてお話する機会がとて多く、私なりの手伝いのできたのではないかと思います。草津市にある光泉高校の放送部から取材依頼があり、郷土のことを伝える活動をしている者として河川レンジャーの北村の活動を今度発表会で使ってくださいそうです。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できなかったこととしては、河川行政にうまくつなげることが悩み中で、具体的な成果として見えにくかったのではないかと考えています。いろいろしているのですが、「河川管理者にとって具体的にどの事業枠のどのことについて結べるか」というところは不明瞭であり、悩んでいることが課題だと思っています。</li> <li>・今後ですが、後半にウォーターステーションで写真展を開催したいと思っています。また淡海の川づくりフォーラム等での成果発表をしていきたいとも考えています。1月・2月・3月の3カ月間は、琵琶湖博物館で活動紹介のパネル展示を依頼されていますので、そちらを予定しています。また、河川管理者の方との接点は引き続き模索していこうと思っています。</li> <li>・以上です。ありがとうございました。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表、ありがとうございました。それでは、北村レンジャーの発表に関して、質問、ご意見を伺います。どなたからでも結構です。どうぞご発言ください。</li> </ul>
大野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアにたくさん取り上げられたということは本当に素晴らしいことで、レンジャー制度全体にとっても大きな成果だと思いました。</li> <li>・最後のできなかったところで河川管理者の課題とどうすり合わせていくのかということをおっしゃっていましたが、それはこの前の意見交換会で話題に上ったり、あるいはヒントになるようなことはあったのでしょうか。</li> </ul>
R北村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この間、私は瀬田川のグループだったのですが、環境など、もう少しテーマを狭めてもらうといいなということは聞かせてもらいました。</li> <li>・1つ意見でいただいたのは、住民説明会のときに地域で説明されるので、楽しかった川の思い出ばかりではなくて、具体的に決壊した場所とか、そういうのも含めていただけるとすごくありがたいと。自分たちも勉強したいというふうにお聞きしました。過去のレンジャーでそういうことをしている人もいますので、彼らの成果を私も勉強し直して、それを一緒につなげていきたいなと感じています。</li> </ul>
北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館での展示で多くの方に見てもらえる機会をつくっていらっしやって、そういう意味では周知の成果も大きいなと思っています。</li> <li>・博物館での写真展の様子を教えてくださいたいのですが、見に来られた方の意見を聞かれたということだったのですけれども、どんな反応が多かったか。もし印象に残っていらっしやる反応があったら、ぜひ教えてほしいと思います。</li> </ul>
R北村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。博物館で聞いた中で一番印象に残ったのが、今回瀬田川の下流の写真ばかりを持っていったので、琵琶湖本体の写真も見たいと。琵琶湖の昔の風景や記憶も見れらよかったのになと言われたのが1つ。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・また、昭和の初めのころになると、記憶がない方がいらっしゃるのですが、写真の中にランドマークのようなものが写っていると、しゃべりやすそうなイメージがあります。風景だけでなく、具体的な建物や場所のあるほうが「ここで何々した」というお話がよく聞けたので、もう少し写真の組み合わせを風景と具体的な場所が誰でもイメージできるものとまぜることが大事かなとも思いました。</li> <li>・意外にも、年配の方ではなくて、50代、60代の方がたくさん声をかけてくださいました。ほかのところでは70代、80代の方だったのですが、博物館の来館者はそこまで高齢の方がいらっしゃらないので、そういう意味では、ふだん接する方より若い方たちの声も聞けたかなというふうに思いました。</li> </ul>
水草	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスコミに複数回取り上げていただいたという報告があったのですが、マスコミは、うまく使えばツールにはなるのですが、悪く使うと悪く使われてしまうというのが当然あると思います。</li> <li>・質問としては、今回レンジャーというものを伝えることができたというところに、北村さんという存在について知っていただいたというものと、もう一つは、北村さんという人物、もしくは活動を通じて、その背景にあるレンジャーという集団としての存在意義を認識していただいたという2種類があると思いますが、ご自身が伝え切れただと思っていることはありませんでしょうか。実際、生放送ではないとは思いますが、何らかの編集がされた上で、もしくはデスクや編集者が編集した上で一般の方々には知られるということがあるかと思います。そのように一般の方々というのはどうしても北村さんが言いたいことをそのまま知れるわけではないという意識のもと、その報道されたものを分析されたことはありますでしょうか。それをされた上で「では、次はどう伝えるか」というところに生かされたらどうかなと思ったのですけれども、ご自身の報道をごらんになって、どう思われましたでしょうか。</li> </ul>
R北村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。今回一番大きく取り上げてくださったのは朝日新聞で、かなり大きなスペースをとってくださいました。写真展前に開催告知をくださったので、それがきっかけでメディアの皆さんが取り上げてくださいました。</li> <li>・最初は、河川レンジャーというより、こういう写真を集めている私の活動についてということだったので、個人に対しての依頼でした。ただ、これを説明するときどうしてもレンジャー制度を説明しないといけなかったもので、最初は私の個人的な取材でしたけれど、それを含めてレンジャーのことも一緒にお伝えさせてもらったという形です。</li> <li>・今回、私が特異だなと思ったのが、朝日新聞には発行前に記事を全部チェックさせてもらいました。ふだんマスコミはこういうことを絶対させない</li> </ul>

		<p>のですが、河川レンジャー制度について表現をされる時、新人の記者さんだったので、「申しわけないけれども、制度のことはしっかり書いてくれ」と何回も言ったら「もう見てください」ということでゲラをもらったので、ある程度はこちらの意図は伝わったのかなと思います。あと、ラジオ番組は生電話の出演で編集なしだったので、その辺はバイアスがかけずにありがたかったなと思っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・難しいと思ったのが、先方は写真展や写真の取り組みの話を知りたいので、制度の話をする時「わかりました」と話を切られてしまう形になるので、私もその辺をうまく、コンパクトに説明したいと思いました。ベストは2本立てで、「レンジャーはほかにもいます」という形で何とか取材を継続させてもらえるようにこれから支援室と一緒に考えていきたいなと思っています。</li> <li>・私も、前職で博物館にいた関係で、マスコミが怖いというのは実感しています。取り上げてもらいありがたかったですが、本当に手間と時間をとられたので、これからは、私が全部受けるのではなくて、それこそ事務所や支援室にうまく振っていききたいなとも思っています。そういう意味で、チームでできたらもっといいのになというふうにも思いました。マスコミの対応に対しては一度皆さんとも意見交換できたらありがたいなと思っています。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後から2枚目のシートに書いていることですが、今は事務所の仕事とダイレクトではないけれど、例えば野洲川は昭和50年代半ばぐらいにかけてああいう形状になってきたことや、河川事務所にも洗堰の古いものと新しいものがあるなど、そういう歴史を写真で目にするることによって「今こんなことになっていて、なぜそういうふうに変わってきたのか」というところが話せるきっかけになるのかなと。例えば、水上さんが出前講座に行くときにネタとして使えるようなこともあると思いますし、ほかのレンジャーにとっても、いろいろする中で必ずしもそれを取り入れてということではないけれど、そこでうまく地元としゃべれるツールとして非常に貴重な活動だと思うので、頑張ってください。</li> </ul>
	平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今のに関連して、河川事務所の事業との接点なのですけども、主軸は古写真を媒体にして地域の人と行政の人が話すということを目指している。ただ、1つ目の発表にあった子供を対象にしたプログラムですけども、子供というのが北村さんの活動の中でどういうふうに関係してくるのですか。子供と行政が話したいわけではないと思います。もちろん、子供に伝えるということは社会的、地域的に意味があるのはわかりますが、この活動で子供がどういうふうに関与しているのですか。</li> </ul>
	R北村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここは子供だけで参加出来ず、親と一緒に来ています。河川について子供を持っている若い世代としゃべれる機会が余りないので、特に散策路</li> </ul>

		に行っても年配の方が多いので、そういう30代や40代の世代の方とまずお話をするきっかけに。
	平山	・わかりました。それでは発表の方法を工夫したほうがいいかなと思いました。少し疑問に思っただけです。ありがとうございます。
	中谷	・委員の皆さん、よろしいですか。発表、ありがとうございました。引き続き、よろしくお願いします。
	R北村	・ありがとうございました。
	△畠中	・ありがとうございます。では、最後になりましたが、眞田レンジャーから報告をお願いいたします。
	R眞田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、発表させていただきます。初めましての方もいらっしゃるので、まず自己紹介をさせていただきます。</li> <li>・眞田拳奨と言います。僕の活動テーマはこの報告書の「実施目的」のところを見ていただくとわかるかと思うのですが、僕はボート部員として活動しているので、利用者の立場に立って、瀬田川に向かって夢中になることを原動力に、それをいろんな方と共有して、川に対して何かいい働きかけができないかというところを引き出せるような活動を目指しています。</li> <li>・今年度の目標は、利用者の利用状況の把握と集計、顔の見える関係づくり、そして活動の継続性という、大きく3つありました。</li> <li>・まず1つ目、顔の見える関係づくりとヒアリングについては、ざっくり言うと、昨年度に比べてより近い距離で行えました。昨年度の課題に書いてあるのですが、各団体との交流にとどまってしまう具体的な活動や思いについて聴取し切れなかったので、今年度はそこを意識して、より近い距離でヒアリングを行ってきました。</li> <li>・具体的には、ボートの大会の場でボート関係者との交流し、ウォーターステーション琵琶で知り合ったコハクチョウの会の方に琵琶湖でのヨットの大会に招待していただきました。僕はヨットの経験はないのですが、乗せていただき、ヨットの利用者さんの視点で「瀬田川はどう映っているのか」と。ヨットというのは基本的に琵琶湖を中心に航行しており、瀬田川はいろんなものが流れる汚い場所というイメージがあるそうで、そういったところでも実際に交流し聞き取ってきました。ほかに、地元のお祭りで住民の方々と交流し、おみこしを担ぎながら「瀬田川にどういう形でかかわっていますか」ということをヒアリングさせていただきました。あとは、瀬田町漁協で漁船に乗せていただき、ここではカヌーの写真が映っているのですが、漁師さん目線で「実は、あそこでカヌーに航路を変えられると、困る」や、漁船の航路だと、その航路上にいる船が優先なのですが、「実は、そこを横切られると、すこし迷惑です」という話など、利用者のフィールドの中に飛び込んだヒアリングができました。また、実際に清掃活動にも参加してきました。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ということで、今年度のヒアリングは、端的にまとめると、利用者の土俵に飛び込んで交流して、利用者の立場に寄り添った内容で、昨年度のように「顔合わせ、挨拶、こんな活動をしています」だけではなくて、その人たちと一緒に活動をして交流を行いました。</li> <li>・実は、これを振り返っていて、これは遊んでいるのではないかというふうに思ったのですが、漁師さんを除いて、基本的に瀬田川の利用者は遊んでいます。それが行政と住民との一番のギャップだと思っていて、行政の方は治水・利水に注目して、できるだけマナーを守ってほしい、法律を守ってほしい、大きなごみが洗堰に引っかかったら大変だからやめてほしいという目線があります。水草に対しても、それが余りにも多いと困るからというふうに考えているのですが、利用者は自分が夢中になりたいことを楽しんでいます。というところを改めて実感する半期になりました。これからは自分が楽しむこと。「その楽しむ場をより快適にするように」というふうに、楽しみたいことを原動力に、何かの形で川の環境をよくする、周りとつながっていく方向に転がしていけたらと。残り半年、そういった視野で取り組んでいきたいと思います。</li> <li>・あともう一つ、大きいテーマとして、LINE@。これはヒアリングの具体的な内容も少し紹介しているのですが、今年の半期はこういった内容で釣り人、ボート、漁協さん、自治会の方々、あと滋賀県の職員さんとも交流ができました。</li> <li>・LINE@について、前回の年度初めの委員会で、僕は学校があり来ることができなかったのですが、SNSを活用してみてもどうかという意見をいただき、僕の中でいろいろ考えたところ、「LINE@はいかがでしょうか」という流れになりました。</li> <li>・ぱっとイメージがつかない方もいると思うので補足させていただきますと、皆さんご使用になっているLINEに一斉送信できるというアカウントになります。なおかつ、個人の意見も取り入れることができる、そうすれば1対1のやりとりもできると、そういう情報発信を一元化できる仕組みになっています。それをこれからしっかりとつくっていきたいと思っています。</li> <li>・具体的に何を発信するかというと、イベント情報や瀬田川に関する豆知識、北村レンジャーや僕自身の活動の発信の場にしていきたいと思っています。</li> <li>・それについては「10、11月中の活動計画とLINE@の活用意義」という補足資料に詳しくまとめてあります。作成目的は瀬田川に関する情報共有の一元化とキメ細かな意見の聞き取りということで、それに関してこれから取り組んでいこうと思っています。</li> <li>・使い方は、公式アカウントのようなものをつくり、それを利用者が友達登</li> </ul>
--	---

録する。そしてすると自動でメッセージが受け取れるというものになっています。

- では、具体的にどうするのかという話ですが「運用方法」のところ、まだこれは構想段階なのでしっかり練り切れていないのですが、月に一、二回程度、定期的に瀬田川に関する豆知識やレンジャーの活動を発信していくという形で、事務所に足を運ぶほどではないけれども、クレームとか苦情とか、そういったことを個人から聞き取れたらと思っています。
- 試しに「実用例」のところに記事を2つ書きました。例えば「瀬田川由来のセタシジミ」ということで、セタシジミに関して御存じない方も瀬田川周辺にはいらしゃると思うので、そういったことを発信し、もう一つ、「夏の風物詩もマナーを守って！」という記事は、実際に河川事務所からのヒアリングでいただいた意見をふんわりとまとめて発信しようと思いました。こういった形で事務所から住民に対しての要望もやわらかく伝えることができますし、住民からの意見も拾い上げて事務所側にフィードバックするという、これこそ「つなぐ」ことに使えるツールなのではないかと思っています。
- 「その他の活用例」ということで、このアカウントを使って瀬田川写真コンテストなども開催してみたらおもしろいのではないかと考えています。例えば、期間を決めて瀬田川周辺で撮った写真を送ってもらい、それを実際にここで展示したり、北村レンジャーの古写真とタイアップして、現在の写真と古写真で写真展を行ってみたりなど、そういった企画もいろいろできるのではないかなと構想を練っています。
- 具体的に今後どうするかというと、実用までの流れで、使用規約や運営ルールを作るという支援室との協議があったので、そこをおこなっていくことと、アカウントの準備、それから実際に試験運用をして問題がないか。その後見直し・点検・調整を行って、実動する。その際には、ウォーターステーションのフェイスブックなどで告知していただいたり、自分でチラシをつくったり、実際足を運んで告知していきたいと思っています。
- 半期でどこまでできたかという、使用規約、運用ルールについてはまだ構想段階で、アカウントの準備については、アカウントの作成と初期設定は済んでいます。試験運用については、釣り人の方や河川事務所の職員さんに「こんなことをしたいです」という話をお話しているので、それぞれのフィールドの利用者の方に依頼済みの段階です。今後はこの流れに沿って活動を進め、実際の運用につなげていきたいと思っています。
- 今後の課題は、LINE@システムの整備とレンジャートライアル制度の活用ということで、目標の3つ目にあつた「活動の継続性・連続性」はきちんとした活動が行えていないので、それについて対応していきたいと思っています。



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少し延びてしまうのですが、ここから10月・11月の活動について話をさせてください。</li> <li>・追加の資料にあるように、学校の実習があつて、ほとんど休みがない状態になり瀬田川になかなか顔を出すことができません。そこで、前回の制度運営委員会でも話をさせていただいたのですが、僕自身が活動を休止するか、継続し何らかの形で活動を進めていくということで、僕のスタンスとしては続けたい意思があります。ただ、最終決定は委員会の皆さんに委ねるつもりでいるので、ご意見をいただければと思います。</li> <li>・京都を中心に活動を継続するとして、大切なのは休止せずに続けるだけ意味のあるものか、休止しないほうがより進展があるのかということだと思っています。「10月・11月に継続させていただけるとしたら、こういう内容で活動する」という日程スケジュールを資料の最後につけています。「具体的な活動計画」のところに10月・11月に僕が京都を中心に行える活動の内容が書いてあります。配信内容の例を2つ載せていますが、記事の作成と、それについての専門的な知識があるものは実際に裏づけをとらないといけないと思っているので、そこを確認するということと、チラシ・カード・ネット記事の作成と試験運用を実際に行うこと。あとはフィードバックによって調整するところということで、この実用までの流れでLINE@でアカウントをつくりたいと思っているのですが、実際に瀬田川に頻繁に顔を出さなくてもできてしまうことが多かたりするので、これを行う上で、京都に缶詰になっていても、時間を確保できれば活動を続けることができるのではないかと考えています。具体的には、10月の第1週から11月の第4週まで添付の表のとおり活動を行っていこうと考えています。</li> <li>・これに関してご意見があれば、お願いします。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。今もお話がありました、最後のページのところに尽きると思います。今までいろいろな団体等々と接触をして活動してもらいましたが、10月・11月の忙しい時期は、瀬田川から離れていても、例えばこの紙に書かれているようなことをやってもらってはどうかと。眞田レンジャーとしても、休止どうのこうのと言わずに、活動を継続したいという意思はおありなのですね。</li> </ul>
R 眞田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。活動を休止してしまうと、2カ月分、後倒しというか、後にしてこのLINE@の試験運用とかを行わなければいけないので、年度内に間に合うか、厳しいラインになってきてしまうので、その年度の区切りに合わせるという意味でも。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今もお話のとおり、続けてやる意思はおありということ踏まえた上で、発表していただいた中身、また私が申し上げたようなところも含めて委員の皆様からご意見、質問等々ありましたらお伺いしますが、いかがでしょうか。</li> </ul>

平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表、ありがとうございます。活動休止の件ですけれども、これはコーディネイト活動が遠隔的にできるのかというチャレンジだと思って、私はされてみるということではいかがかなという印象を持っています。</li> <li>・ただ、この中身のことを伺うのですが、これは具体的に誰に送るのですか。</li> </ul>
R 眞田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この試験運用ではなくて、全体としてですか。</li> </ul>
平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体として。</li> </ul>
R 眞田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬田川の利用者さんと、瀬田川にかかわる人に。</li> </ul>
平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何でそれが特定できず、かつここに送れば利用している人に送れるというのは？</li> </ul>
R 眞田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対個人でそれぞれ追加していただくので。</li> </ul>
平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者にグループに登録してもらおう？</li> </ul>
R 眞田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。</li> </ul>
平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、そこで登録していない人にはもちろん送れないですね。</li> </ul>
R 眞田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。できるだけ母数をふやすためにチラシやポスターを作成して、近隣のそういったところに掲示していただけるようにとか。</li> </ul>
平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「まずは登録してください」と。</li> </ul>
R 眞田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。</li> </ul>
平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう一つの質問は、送る人は眞田さんが何をしてくれる人だと思って送るのでしょう。そこを伝えるのが難しいかと思っています。河川事務所のお手伝いをしている人だというふうな勘違いが起こると、ここでも心配しているように、クレームや河川事務所をお願いしたいことばかりが集まるのではないかとこのことを心配しています。</li> <li>・先ほどお話しした「どういふ声があるのか」ということに関連して、クレームなのか、声を伝えたい人の思い違いなのでこちらからきちんと説明したほうがいいことなのか、一緒に何かをやろうという呼びかけなのか、そういう声を分類して、それを眞田さんがどう扱うかを決めておくと思います。例えば「河川事務所に伝えることはする」「河川事務所から回答を求めることは河川事務所をお願いする」「眞田さんから説明することは説明する」というように、試験運用のときに「どういふ声があつて、その後、自分はどういふふうにするのか」を考えた上でその後の実動につなげられるのであれば、遠隔でコーディネイトのためのツールを整備するという意味で活動できるのではないかなと思います。ただ、私が今申し上げたことをきちんと考えてから試験運用をしたほうがいいかなと思います。</li> </ul>
北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の委員会から10月・11月のご予定を見越して相談されて、「LINE@でこういうふうな活動したら？」という委員会コメントもあったので、その中で精いっぱいつくっていただいているなど思いながら拝見して</li> </ul>

		<p>います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私も、この2カ月でやれることの意義は大きいように思うので、そのままされたらどうかと思います。</li> <li>・ただ、スケジュールを見ますと、10月の第1週・2週で記事をつかって、3週・4週で推敲してもらおうということに重きを置いていらっしゃると思うのですが、私の感覚では、本当は河川事務所を通すとややこしくなるかもわからないという中で言いますけれども、セタシジミや行事を発信するぐらいだと、そんなに問題は大きくなるのではないかと。やりとりの中で、先ほど平山委員がおっしゃっていたように、運用者側である眞田さんがお返りする返事の内容のほうでややこしさが大きいのではないかと思います。運用し出してから出てくる課題も結構あると思うので、早いうちにいろんな人に情報発信できるような体制を整えて、機会がふえている、発信している時間が長いことのほうがいろんな状況に対処できる時間もあり、メリットが大きいのではないかなというふうに思いながらお聞きしました。</li> <li>・最初にサイレントマジョリティーの意見をどう聞くかという話が出ていましたが、LINE@ができて、自発的に登録してくださる方がふえる中で、そういう方たちにも情報を伝えられたり、気軽に話がやりとりできるのであれば、あと配信している層や受け手も違う方になるのであれば、今まで使っていなかったツールだと思うので、意義があるのではないかなと思います。</li> <li>・そういう意味で、発信内容というよりも、やりとりの運用の部分に課題が大きいのではないかなと思うので、そこに早くたどり着くといいなと思いながら伺いました。できたらこの2カ月の構想の中に、規約までいなくとも、運用ルールを整理して、ある程度見える状況になっているほうがいいのかなど。いろんな場合に対処しやすくなるのではないかなと思うので、もう少しその部分を詰めるということも想定されたらどうかというふうに思います。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今のに関連する話ですけれども、具体的にこういうところへ広がればいいなというのは、先ほども出ていた、ボートやヨット関係の人とか、釣り人でごみ拾いをしている人とか、まずはそういうところという感じですか。</li> </ul>
	R眞田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。まず、瀬田川にかかわっている人はアプローチしたときに受け入れてもらいやすいのかなという印象です。ただ、最終的には瀬田川にかかわっていない人を瀬田川に引き込むような発信をできたらいいなと思っています。自治会を通して住民の方々に広報していただければ、清掃活動なども発信できるし、まず知ってもらう、興味を持ってもらうというところにも踏み込めるのではないかなと思っています。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そういう面では、どういう情報を出すのかということももうまくイメージ</li> </ul>

	<p>しておかないといけないと思うし、自治会という話も出ましたが、その辺でつながっていくと、サイレントマジョリティーの気持ちもある程度は知ることができるのかなという気もします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あと、気になるのは、1カ月に1,000通をどうのというところがあって、そこの仕組みはどうなのでしょう。</li> </ul>
R 眞田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このアカウント自体が、1カ月に1,000通までだったら無料で送れるけれど、それ以上は有料契約しないといけないという形になっています。もちろん、謝金の中にそういった活動費は含まれているので、僕が担当している間は僕自身が負担して運用することはいいと思うのですが、誰かが引き続くときに「お金を払って管理しないといけないの？」というふうに後任のレンジャーに言われてしまったら、せっかくつくっても、僕がいなくなった後に残るものとして難しいと思っています。どのくらいの人が集まるのかというのはあまりイメージができていないので、実際に運用してみて、改めてそういったところも考えながら有料契約して。一番理想なのは、どこからお金が継続的に出て、こちらの負担がなければ後々のレンジャーにもつなげやすいのかなと思うのですが、そういったところもまだ検討し切れていない部分が多いので、改めて支援室と相談しながら検討していけたらいいと思います。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうですね。そこは検討の必要があります。無料にしておいて、範囲を超えたら自動的につながらないとか、そういうシステムはないのですか。</li> </ul>
R 眞田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一応、無料でやっていったら、範囲を超える場合はとまる形にはなります。運用ルールは改めて検討する必要があるかなと。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やるのであれば、その辺も細かくチェックしながら進めていかないといけないと思います。</li> <li>・今、眞田レンジャーから発表いただきましたが、ご本人の事情により2カ月についてはそういう活動。ただ、これまでとは違った意見の吸い上げも実現可能性ありということなので、発表いただいた方法を使って進めていただいてもいいのかなと思うのですが。</li> </ul>
平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験的にやってみることはいいと思うのですが、試験運用をしている中で、声を受けて、それに対して何かしなければいけないことに負担を感じたり、事務所との調整やこちらの松尾さんとのやりとりが負担になったときには、今は学業が本業だと思うので、途中でも休止したいということを書いて、無理のないようにしていただけたらいいかなと思います。</li> </ul>
水草	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私は7月からなのですが、引き継ぎというか、担当からはその2カ月間をどうしようかというふうに聞いていて、2カ月間の活動ならいいのではないかという話はしていたところです。お話を伺っていると、この2カ月間で今後のことも含んでいろいろ構築されて頑張られるということなので、すけれども、「うーん」と思うところがありました。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1つ思ったのが「遊び」。私ももう随分前ですけども、学生さんは遊べるのが非常によろしい。我々が仕事で「遊んでくれ」と言っても誰も遊んでくれないので、その「遊び」の視点を吸い上げるツールとして学生さんはすごくいいなと思ったのです。</li> <li>・問題は、遊び人ぐあい。ある意味、遠山の金さんではないですけども、市中で遊んでいるからこそ知れるものがあるのに、これが本業になってしまうと、「では、遊び人の仕事はどうなっているのだ」という話になるのは嫌だなと思ひまして。今もおっしゃっていた今後負担になる場合も含みで、もう少し遊び人ぐあいを考えていただいて。2カ月間でどう遊ぶかを考えるというのがいいと思ひました。ここまで仕込んでいただいて、ぽつと出の私が申し上げるのもなんですけども、もっと「どう遊ぶか」というところを、遊んでいない間に「遊びたい!」と言って考えるというのも一つあるのかなとは思ひました。</li> </ul>
R 眞田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。どう遊ぶか、難しいです。あまり遊んでばかりだと、委員会で成果が出ていないと言われてしまうので、そこは先ほど根本山さんにも相談させていただいていたのですが、これから考えないといけないところです。</li> </ul>
水草	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ただ、レクリエーションで活用されている人が多いというのは事実ですから。</li> </ul>
R 眞田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。そこはすごく思います。河川事務所の方々との意見交換でも実際にヒアリングした内容でも、そこが一番のギャップだと思うので。</li> </ul>
水草	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうですね。特に平日の日中に平日休みの人の意見を聞くなんていうのは、我々公務員では絶対無理な話なので。遊びながらというのはです。</li> </ul>
平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私が活動していたとき、ウォーキングの人は携帯を持って歩いていないという割合が結構多くて、もしかしたら「その辺の声を聞きたいけれども」というところで行き詰まるかもしれないと思ったので、コメントです。</li> </ul>
北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最近スマホアプリで歩数をはかったりしています。</li> </ul>
平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、「そうしてください」と言って。</li> </ul>
R 眞田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そういった方に手軽に渡して、持って帰ってもらえるようなカードなどを。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そう、コードをつけて。</li> </ul>
R 眞田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・QRコードをつけたカードを作成したら、置いてもらいやすいし、近くの飲食店にも置いてもらいやすいしということをこの期間中にいろいろ構想を練って、デザインして作成までいけたらいいかなと思っています。</li> </ul>
水草	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さっき北村レンジャーとコラボレーションみたいな話があったと思うのですが、コラボレーションであれば、例えば古写真を見た人に古写真と全く同じアングルで撮ってもらって、「誰が一番似ているか選手権」とか。そのときには、投票の条件として、必ず古写真との差分のコメントが要ると。</li> </ul>

		「自分で現場に行きどう思ったかというコメントがない人は投票できません」というような感じにして、そこから何を情報として引っ張ってくるか。例えば、現在の川についてどう思っているかというところを情報として引っ張るといってもおもしろいのかなと思いました。そういうのを考える2カ月でいいかもしれないです。情報を吸い上げるのはそんなに苦労しないのですが、発信し続けるのは負担があり過ぎて、それはどうかと思いますので、ご自身の学習とも勘案して。
	中谷	・では、それらを踏まえた上で、いろいろ工夫してやっていただくということで。
	R 眞田	・はい、わかりました。今年度も折り返し地点なので、結果を残せるように頑張ります。以上です。ありがとうございます。
	中谷	・そうしましたら、3人のレンジャーさんから中間報告をしていただきました。今のパートを通して、何か委員の方からご意見、ご指摘等ありませんでしょうか。ないようでしたら、審議事項はここまでとさせていただきます。

(**太字**：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
6. その他	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あと、「その他」の項目です。</li> <li>・なかなか集まる機会も少ないので、委員の皆様から、こういうところを議論しておくべきではないかとか、何かありましたらお話しいただければと思うのですが。特によろしいでしょうか。</li> <li>・そうしましたら、いつものとおり、最後に傍聴の方のご意見等をお伺いしますが、いかがでしょうか。</li> </ul>
	○朝田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リバプレ隊の朝田です。僕は河川レンジャーというシステムに非常に興味を持って今までずっと運営委員会に出させてもらって聞いていたのですが、結局、住民と行政をいかに上手につなぐかという一つの役割があると思うのです。以前の運営委員会は、本当に靴の上から足をかいているみたいで、レンジャーの育成につながってないような感じだったのですが、委員長を初め、委員、それから事務局のおかげで雲泥の差があるほど「河川レンジャーをこれから育成していくのにどうだ」という感じで来たので、これからも頑張りたいと思います。</li> <li>・ただ、河川レンジャー自身も非常に大変だと思います。活動の報告はしなければいけない、こんな形で中間報告や最終報告をしなければいけないとか、そういうので大変なところを頑張ってもらっていますので、大いに河川レンジャーの人にも頑張ってもらいたいと思います。</li> <li>・それからもう一つ言わせてもらおうと、根木山レンジャーの野洲川の活動もかなり住民との連携を頑張ってもらっているということで、住民が河川レ</li> </ul>

		ンジャーをどれだけ知っているかということも一つあると思います。僕は瀬田川の近くに住んでいるし、できたら瀬田川の中の人を中心になって、瀬田川のレンジャーとして、住民の人が「よくやってくれているな」と言うような活動に持って行ってほしいなというふうに思っていますので、ひとつまたよろしくをお願いします。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見、ありがとうございました。今もお話しいただきましたが、そういう面でレンジャーさんには頑張ってくださいませ。</li> <li>・ほかにおられますか。</li> </ul>
	平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すいません、1点だけ。今、思い出したので。</li> <li>・根木山さんと水上さんの活動について、活動計画書などの文章に「野洲川」と書いてあるのですけれども、先日野洲川の上流部の方と意見交換したときにちょっと違和感があったので。たまに「河口部」というところもあるのですけれども、「野洲川」と言ってしまうと、あの上流から下流までという印象を持たれる方もいるかなと思いますので、下流域や、少しエリアを指定したほうがいいかなというふうに思いました。主にはもう市とか関係者が見えているので、その辺は具体的に書いたほうがいいかなということです。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野洲川は長いですからね。</li> </ul>
	平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少しつけ加えると、上流と下流の方の意識が結構違うな思ったので、あと農業者の意識も違うなと思っていて、「うちのところではそんなのやってない」と言われると、まずいかなと思った次第です。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの辺で分けようというイメージですか。</li> </ul>
	平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう具体的に活動されている市とか自治会のエリアというふうに。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そういう意味で。</li> </ul>
	平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ただ、「下流部」とか言うと、「野洲川何々地先」。</li> </ul>
	平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難しいです。5市にまたがっています。結構分断されているなと思って。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それはそうですけれど。工夫してということです。ありがとうございました。</li> <li>・そうしましたら、この運営委員会はここまでとさせていただきます、事務局、お願いします。</li> </ul>

(**太字**：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
7. 閉会	△畠中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長時間にわたりましたのご審議、ありがとうございました。</li> <li>・本日、年間活動計画(案)と中間報告についてご審議いただきました。事務局のほうでいただいた意見を取りまとめまして、委員の皆様にご確認い</li> </ul>

	<p>ただきますが、そのときに「きょう言い足りなかった」とか「追加でこういうことも」ということがございましたら、あわせてレンジャーの皆さんにお伝えして下半期の活動にぜひ生かしていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・そうしましたら、以上をもちまして、第52回河川レンジャー制度運営委員会を閉めたいと思います。委員の皆様、それから参加いただいた傍聴の皆様、ありがとうございました。</li><li>・この後、引き続き、河川事務所と委員の皆さんとの意見交換を行います。5分ほど休憩をとりまして、4時過ぎから始めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</li></ul>
--	---



## ■ 平成29年度第 2 回琵琶湖河川レンジャー・琵琶湖河川事務所意見交換会

◇日時：平成29年11月15日（水）15：00～17：00

◇場所：ウォーターステーション琵琶 2階 交流スペース

◇趣旨：河川事務所が困っている課題、なかなか手の届かない課題を具体的に提示し、河川レンジャーと共有することから、その解決策について忌憚なく多様なアイデアを出す。

### ○会の流れ

河川事務所より、話題提供として「これまで河川レンジャー活動と河川事務所の課題解決につながるものを提示してこなかったので、課題リストの提出をしたいとの意向を持っている。」という言及があった。

その後、課題の大枠の概要が伝えられ、河川レンジャーとの意見交換がなされた。

### ○出席者

- ・琵琶湖河川レンジャー 3名
- ・琵琶湖河川事務所 7名（事務所長、副所長2名、管理課2名、瀬田川出張所長、野洲川出張所長）
- ・流域連携支援室 4名

### ○全員議論

◇具体的な課題を挙げる

→整理した課題の概要

〈瀬田川〉・水草をなくしたい・ゴミをなくしたい・水際の樹木伐採をしたい

〈野洲川〉・高水敷の除草をしたい・河道内の樹木伐採をしたい

〈瀬田川・野洲川共通〉・企業連携をしたい

◇挙げられた課題について議論する

→活動領域の中で河川レンジャーが出来ることを河川レンジャーが発言し、前向きな可能性が表された。

→河川事務所からのアイデアについて、事務所から発言した。

◇今後の進め方

→後日、事務所が課題リストを作り、伝える。

→河川レンジャーから、長期的に対応ができるのではという感想が述べられた。

### ○講評

- ・事務所長より、河川レンジャーが、バランス感覚の中で自分の知識、人材を有効に使って活動して欲しいということ、また、今回この意見交換会で事務所課題に対する今後の対応について、このように受け取られたということを委員会に伝え今後につなげたいと締めくくられた。

### ○会の様子



## 河川管理者が希望する河川レンジャー活動のリスト

第53回河川レンジャー  
制度運営委員会  
資料3-2(18.2.22)

※課題解消に繋がれば、どのような活動をするかは手法は問いません。活動の事例はあくまでも参考です。

目的	課題	レンジャー活動のリスト事例	レンジャー活動の事例
河川環境改善への取組	堤防除草の範囲外である高水敷の草の繁茂がなくなり、河川の景観が悪い。	高水敷除草を伴う活動を増やす	ミズベリングの活動を増やす。
			占用者(団体)を増やす
			占用者(企業)を増やす
	治水上支障がないため国交省では予算化できないが、外来種(オオバナミズキンバイ)は繁殖力が強く日本の植生を侵食している。	外来種の駆除 外来種が生えないようにする。 外来種を活用する 等	外来種(オオバナミズキンバイ)の生育範囲を調査し広報する
			外来種(オオバナミズキンバイ)の適切な駆除方法を広報する。
			外来種(オオバナミズキンバイ)の駆除活動団体を増やす
治水機能の継続性の確保	河道内樹木の伐木は定期的を実施しているが、その間に樹木が成長し治水機能が維持できない。	伐木面積を増やす 木が生えないようにする 等	外来種(オオバナミズキンバイ)を必要とする企業を探す。
			外来種(オオバナミズキンバイ)の駆除活動の参加者を増やす
河川美化活動の促進	拾っても捨てられるゴミの不法投棄により河川の美観が損なわれている。	河川からゴミを減らす ゴミを捨てられないようにする ゴミが増えても大丈夫な仕組みをつくる 等	公募伐採の希望者を増やす。
			伐木希望者を探す。
			チェーンソーの技能講習等伐木する場所を探している者を探す。
			不法投棄を減らす。
住民の河川にかかわるニーズの収集	個人の意見が解らない。	住民意見を聴いた場合、河川管理者とつなぐ。	清掃活動の参加者を増やす。
			不法投棄を減らす。
事業の検討段階における住民意見の聴取	今後、住民意見を聴く必要がある場合に対応できる準備しておく必要がある。	現在なし。	清掃活動団体を増やす。
			流域からゴミを減らす。
			—
			—

タイトル 住民と行政がともに考える川づくり

■年間活動報告書 要約版

氏名：水上幸夫

作成日：2018年2月6日

	年間活動計画	活動結果
背景と昨年度の課題	<p>(背景)</p> <p>私は川は住民の宝でありできるだけ多くの人々に「川に関心を持ってもらい」「川に直接ふれてもらい」「川の事を自ら考えてもらう」等の行動をしてもらえるような「住民参加の川づくり」の取り組みを進めるべきだと思っている。そのためには行政(河川管理者)と住民がともに考える川づくりを進める事が重要であると考えている</p>	
実施目的	<p>(ビジョン)</p> <p>① 野洲川が多くの人の活動場所となる。 ② 住民が川づくりに参加できるような仕組みができる ③ 住民と行政がともに考える川づくりの仕組みができる ④ 最終的には住民と行政が連携した住民参加の川づくりが実現する</p> <p>(ミッション)</p> <p>サブテーマとして3つのテーマで活動</p> <p>① 地域住民参加の川づくり ② 企業参加の川づくり ③ 地元中学校参加の川づくり</p>	
今年度の成果目標と結果	<p>①住民とのネットワーク(信頼づくり)を構築する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民への出前講座等による信頼関係づくり。</li> <li>・住民だけではなく企業への信頼関係づくりとネットワークを構築する</li> </ul>	<p>A ・ B ・ C ・ <b>D</b> ・ E ・ F</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出前講座の資料や登録等はできたが出前講座が実施できなかった。</li> <li>・企業への信頼関係づくりはヒアリング等によりできた。</li> </ul>
	<p>②野洲川河口部のヨシ帯調査については「地元中学校と行政が連携した川づくり」の先進事例となるような新たな活動の模索</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政主体から住民(立命館守山中学校)が主体的に活動しそれが継続するようにコーディネートし新たな活動を模索する。</li> <li>・立命館守山中学校の思いと琵琶湖河川事務所の思いをつなぐ。</li> <li>・立命館守山中学校と行政(琵琶湖河川事務所)との意見交換会(YRP)により</li> </ul>	<p>A ・ <b>B</b> ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>行政主体から立命館守山中学校が主体的に活動しそれが継続するような活動ができた。</p> <p>立命館守山中学校の野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査の秋季調査については YRP (意見交換会) を開催し行政と立命館守山中学校の思いをつないだモニタリング調査を実施できた。新たな活動として今までの活動の調査成果を「未来を担う中学生と行政がともに考える川づくり」をテーマに事務局長をはじめ</p>

	お互いの思いを聴き新たな活動を模索する。	めとする琵琶湖河川事務所職員と立命館守山中学生との意見交換を開催しそれぞれの野洲川への思いを繋ぐ事ができた
	CSR 活動による企業参加の川づくりの活動は野洲川沿川での具体的な活動は難しいと言われていたが活動の計画作成を進めている段階ではあるがヒアリングした企業の方が活動について理解を示していただき、来年度、具体的な活動へと発展させる手応えを感じた。	
	年間活動計画	活動結果
活動内容の計画と結果	<p>①住民とのネットワーク(信頼づくり)を構築する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民への出前講座等による信頼関係づくり。</li> <li>・住民だけではなく企業への信頼関係づくりとネットワークを構築する</li> </ul>	<p>出前講座の資料作成や出前講座応募の登録等を行った。</p> <p>企業への信頼関係づくりのためのヒアリングを行った。</p>
	<p>②野洲川河口部のヨシ帯調査については「地元中学校と行政が連携した川づくり」の先進事例となるような新たな活動の模索</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立命館守山中学校の思いと琵琶湖河川事務所の思いをつなぐ。</li> <li>・立命館守山中学校と行政(琵琶湖河川事務所)との意見交換会(YRP)によりお互いの思いを聴き新たな活動を模索する。</li> </ul>	<p>立命館守山中学校の野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査の秋季調査を実施した</p> <p>YRP(意見交換会)を何度も開催し行政と立命館守山中学校の思いをつないだモニタリング調査を実施</p> <p>活動の調査成果発表と「未来を担う中学生と行政がともに考える川づくり」をテーマに琵琶湖河川事務所職員と立命館守山中学生との意見交換会を開催した。</p>
活動対象に関する関係づくりの結果	<p>① 住民・企業</p> <p>② 河川管理者(琵琶湖河川事務所)</p> <p>③ 立命館守山中学校</p>	<p>企業について野洲川での地域と連携した CSR 活動を来年度から進めていける関係づくりができた</p> <p>河川レンジャー活動についてともに考え活動する関係づくりができた。</p> <p>野洲川での活動を継続していける関係が築けた</p>
今後の課題	<p>①企業と行政がともに考える川づくり</p> <p>今年度、企業については野洲川での地域と連携した CSR 活動を進めていける関係づくりができたので、企業の CSR 活動をより具体的に進め企業の川への思いと行政の野洲川への思いを繋げる活動に発展させる。</p> <p>②地域住民と行政がともに考える川づくり</p> <p>今年度は住民との信頼関係づくりが進まなかったので出前講座等による信頼関係づくりを進めていく。</p>	

		年間活動計画											
工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	・住民とのネットワーク（信頼関係づくり） ・地域住民及び企業の潜在ニーズの掘おこし						ヒ ア リ ン グ 出 前 講 座	ヒ ア リ ン グ 出 前 講 座	ヒ ア リ ン グ 出 前 講 座	ヒ ア リ ン グ 出 前 講 座		と り ま と め	考 察
	野洲川河口部ヨシ帯再生モニタリングの新たな展開						YRP 開 催	活 動		YRP 開 催		YRP 開 催	

※年間活動計画における工程計画（上段）に対して、活動実績を記載してください。

		活動結果											
工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	・住民とのネットワーク（信頼関係づくり） ・地域住民及び企業の潜在ニーズの掘おこし						ヒ ア リ ン グ	ヒ ア リ ン グ	ヒ ア リ ン グ	ヒ ア リ ン グ	ヒ ア リ ン グ	考 察	と り ま と め
	野洲川河口部ヨシ帯再生モニタリングの新たな展開							活 動  YRP 開 催		YRP 開 催	YRP 開 催	意 見 交 換 会 開 催	

タイトル 野洲川の川守りをつなぐ

■年間活動報告書 要約版

氏名： 根木山恒平

作成日： 2018 年 2 月 5 日

	年間活動計画	活動結果
背景と昨年度の課題	<p>野洲川のうち最下流部の守山市中洲地区では、地域の長年の要望を受けて、守山市と国交省による「かわまちづくり」（水辺整備）が進行中で、昨年 7 月、（一部エリアは）暫定供用開始され、今年度中に、残りの工事も完了する計画です。</p> <p>地域では、これまでの経過の中で、さまざまな意見があるようですが、中洲学区としては、守山市との間で、維持作業に関する「覚書」を結び、また、利用についても、守山市地域まるごと活性化プランにもとづき、住民チーム「野洲川プロジェクト」にて検討中です。</p> <p>住民有志グループ「なかず野洲川たんけん隊」は 3 年目に入り、住民主体の運営体制へシフトしていきます。</p> <p>今後、住民にとって、野洲川が利用と保全の良好なバランスの中で位置づいていくことが目指されますが、良い流れになるかどうかは予断をゆるしません。</p> <p>行政においても、国、市の複数部署にまたがっており、地域内の意思疎通を含め、行政と住民との日常的な連絡、対話を促し、共通認識をはぐくみ、多様な主体がそれぞれに充分に関わる川づくりが求められます。</p>	
実施目的	<p>（ビジョン）</p> <p>地域住民によって、野洲川での活動が定期的開催され（野洲川の利用が促進され）、その活動をとおして、野洲川への住民の関心が高まり、活動フィールドを整備するために、野洲川での清掃・除草作業などに参加、協力する住民有志がある。</p> <p>（ミッション）</p> <p>地域、住民の間に入りつつ、琵琶湖河川事務所や守山市の複数部署にまたがる行政との間の協働にも参画し、野洲川・中洲地区における住民連携の川づくりのつなぎ役として活動します。</p>	
今年度の成果目標と結果	<p>※活動計画で掲げた成果目標に対して実際の達成度を A～F（A が達成度最大、F が達成度最低）の 6 段階で自己評価してください。また、そのように評価した理由や根拠があれば書いてください。</p>	
	<p>1. 地域住民有志による野洲川での子どもたちの活動（こどもクラブ）を支援し、住民主体の持続可能な活動体制づくりを目指します（2 年後）。</p>	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>年度初めに話し合いを行い、保護者に主体的に運営に関わってもらえるようになってきた。</p>
	<p>2. 野洲川中洲地区かわまちづくり（守山市・琵琶湖河川事務所）に関わり、地域による利用と保全のバランスの良い活動を目指します。</p>	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>新住民組織が発足し、市から受託した除草作業の実施体制はつくられている。利活用に課題。</p>
	<p>3. 野洲川中洲親水公園の利用者ならびに野洲川の管理用道路を活用した自転車道の利用者へのヒアリングを行い、河川管理者とも意思疎通をはかります。</p>	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>親水公園の利用者 40 人にヒアリングを行い、河川管理者にも伝達できた。</p>
	<p>4. 野洲川河口部ヨシ帯再生モニタリングにおいて、他のレンジャーや活動支援室とも連携し、中学校と河川事務所、その他機関との連携を支援します。</p>	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>春季調査まで主担当として連携支援できた。夏以降は、他のレンジャーに継承した。</p>
	<p>※当初想定していなかった成果</p> <p>野洲川の河道内の樹木（公募伐採）に、こどもクラブが応募し活動した</p>	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>事務所が持っている課題に対して、こどもクラブ（住民有志）の活動をつなぐことができた</p>
	<p>※これまでの活動の中で、自ら評価できる点などを記載して下さい。</p> <p>5 年目の活動になり、成果目標（活動個別テーマ）ごとに進捗や課題にはばらつきはあるが、野洲川出張所、河川環境課、管理課、河川レンジャー活動支援室、また、中洲会館、中洲小</p>	

	学校、こどもクラブ（住民有志）などとの意思疎通をはかり、情報や課題を共有しながら、活動を進められていると思います。	
	年間活動計画	活動結果
活動内容の計画と結果	※活動計画で掲げた活動内容に対して、これまでに実際に実施できた事柄、計画していたが実施できなかった事柄、さらに、当初予定していなかったが実施できたことなどを、前述の成果目標の番号と対比して記載してください。	
	① 地域住民有志による野洲川での子どもたちの活動（こどもクラブ） ・運営体制のシフトの方針の確認（4月） ・実際の活動の運営支援（5～12月）	運営体制のシフトの方針の確認は、明確にできた。実際の活動の運営支援も、住民の自発性を基調にしながらやれている。自主運営2年目に向けて、活動の振り返りをしている。
	② 野洲川中洲地区かわまちづくり（守山市・琵琶湖河川事務所） ・プロジェクト会議への参加 ・維持管理作業への協力 ・利用計画づくりおよび活動実施への協力	従来からの中洲学区住民によるプロジェクト会議にオブザーバーとして参加している。2月に実施される風上げにも協力している。次年度からの新組織「あめんぼうサポート隊」は、中洲会館を通じて、情報共有につとめている。
	③ 利用者へのヒアリング ・野洲川中洲親水公園の利用者 ・野洲川の管理用道路を活用した自転車道の利用者	7月に野洲川中洲親水公園の利用者40人に対してヒアリングし河川管理者に情報提供した。自転車道の利用者へのヒアリングは、次年度に見送り、河川管理者との情報共有をはかっている。
	④ 野洲川河口部ヨシ帯再生モニタリング ・年間活動計画づくりへの協力（河川事務所や中学校の人事異動への対応） ・他のレンジャーや、活動支援室との連携の模索	昨年度末からの担当課の人事異動が大幅にあり、また方針も中学校の主体性を伸ばす方向にシフトする中で、つなぎ役として仲介し、春季調査を無事に実施できた。7月に着任された新レンジャーとも情報共有、意思疎通をはかり、主担当を新レンジャーに継承した。
	※当初予定していなかったが実施できた野洲川の河道内の樹木（公募伐採）に、こどもクラブが応募し活動した	河川事務所から聴取した課題（河道内樹木伐採）について、こどもクラブで話題にしたところ住民メンバーが伐採作業しようと言ってくれた。事務手続と安全管理等を支援した。
活動対象に対する関係づくりの結果	※活動計画の中で、「活動の対象」として挙げた相手について、活動を通して実際にどのような関係づくりができたのかを記載してください。また、当初想定していなかった相手との関係づくりが出来た場合には、そのことも記載してください。	
	① 地域住民 ⇒こどもクラブの運営メンバー（住民有志） ⇒中洲学区・野洲川プロジェクトのメンバー（自治会選出住民） ⇒野洲川の利用者（地域外からの来訪者含）	こどもクラブの運営メンバーとは、子どもの自然体験や主体的な学びという観点から、価値観を共有し良い関係ができています。中洲学区自治会選出住民との関係構築に課題がある。利用者の声の聴取に努めている。
	② 河川管理者（琵琶湖河川事務所） ⇒野洲川中洲地区かわまちづくりや、河川管理用道路の整備（守山市による自転車道としての活用）、野洲川河口部ヨシ帯再生モニタリング、野洲川の維持管理業務等の各担当課	野洲川出張所、河川環境課、管理課、工務課などと、河川事務所意見交換会も活用して、顔をあわせての情報、意見交換ができています。レンジャー支援室にも仲介してもらいながら、活動ごとの情報共有にも努めている。
	③ その他 ⇒中洲学区、中洲会館、中洲小学校、中洲こども園ほか ⇒守山市地域振興課、都市計画課、建設管理課、国県対策課ほか ⇒野洲川冒険大会実行委員会、立命館守山中学校ほか	中洲会館とは情報共有をはかり、意思疎通ができています。こどもクラブの活動を通じて、協働のまちづくり課や、広報課とのやりとりができるようになった。中洲小学校からもご理解とご協力をいただいている。野洲川冒険大会とは、新任のレンジャーとも情報交換しながら、関係構築を進めている。
今後の課題	活動も5年目が終了する時期に入り、上記したような関係者との関係構築および情報共有も進んできているため、野洲川・中洲地区における住民による継続的な利活用と維持管理への協力の仕組みづくりについて、なにかしら具体的な方策が構想できないか検討してみたい。	

年間活動計画													
工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	活動計画・報告	計画作成						中間報告					活動報告
	(1) こどもクラブ	計画	準備	●活動	●活動	●活動	●活動	●活動	●活動	●発表	振り返り		
	(2) かわまちづくり	相談	相談	相談	●除草	●除草 ●利用	相談	●除草	相談	相談	相談	総括	
	(3) ヒアリング		意見交換		ヒアリング	ヒアリング	まとめ&伝達						
	(4) 野洲川河口部ヨシ帯再生モニタリング	計画 引継ぎ	●調査			●発表 機 会		●調査			●発表 機 会	総括 申し 送り	

※年間活動計画における工程計画（上段）に対して、活動実績を記載してください。

活動結果													
工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	活動計画・報告	計画作成			意見交換会		中間報告		意見交換会				活動報告
	(1) こどもクラブ	計画	準備	●活動	●活動	●活動	●活動	●活動	●活動 樹木相談	●発表 樹木応募	振り返り 樹木伐採	振り返り 樹木伐採	次期計画 樹木伐採
	(2) かわまちづくり	会議	会議	会議	会議 ○除草	会議 ○除草	○サポート 隊員募集	○サポート 隊員募集	会議 ○除草			●利用 行事協力	○サポ ート隊 員再集
	(3) ヒアリング	意見交換			ヒアリング		まとめ&伝達			情報交換	情報交換		次期計画
	(4) 野洲川河口部ヨシ帯再生モニタリング	計画 引継ぎ	●調査		新R 協議 継承								

#### 活動工程に関するふり返り

おおむね計画どおりに進んだ。年度途中で、新レンジャーが任命され、河口部ヨシ帯再生については、協議の上、主担当を継承することになった。また、河川事務所との意見交換会を踏まえ、野洲川の河道内樹木の公募伐採に、こどもクラブで応募して活動することになった。そのため、今年度予定していた自転車道利用者へのヒアリングを次年度に見送ることを、河川事務所とも情報交換しながら決定した。



タイトル 河川にまつわる「地域の記憶掘り起こし」と会話の場の創出

■年間活動報告書 要約版

氏名： 北村 美香

作成日： 2018 年 2 月 6 日

	年間活動計画	活動結果
背景と昨年度の課題	<p>(背景)</p> <p>河川と先人の関わってきた経験や知恵の集積が行われ、地域の歴史のひとつとして生活と共にあったころの河川情報に注目し、住民と行政が話をするひとつの話題として、今後のあり方について意見交換ができる関係構築のきっかけづくりが必要であると考えている。</p> <p>(昨年度の課題)</p> <p>今後のあり方について意見交換ができる関係構築のきっかけづくりのための場の創出と、双方のコミュニケーションの機会と場を増やすことを目指し、河川整備も街づくり、地域づくりの一つの要素であるため、切り離して考えるのではなく、視野を広げていきたい。</p>	
実施目的	<p>(ビジョン)</p> <p>古写真収集やヒアリングより得られた成果や、個人のポテンシャルを活用できるものなかから、連携できるものを模索していく。また、現在活動している関係団体とのネットワークを構築し、共同で取り組むことで新しい発展ができることを目指す。</p> <p>(ミッション)</p> <p>地域の方と一緒に活動することで、長期的な活動の継続を目指し、そのための支援をしていく。また、住民と行政とが会話をするきっかけづくりの場を創出し、これまでの河川レンジャーの活動成果も活用して双方のコミュニケーションの機会と場を増やしていく。</p>	
今年度の成果目標	<p>※活動計画で掲げた成果目標に対して実際の達成度を A~F (A が達成度最大、F が達成度最低) の 6 段階で自己評価してください。また、そのように評価した理由や根拠があれば書いてください。</p>	
と結果	<p>1. 河川に関する記憶を掘り起こしと、住民・行政の情報共有</p>	<p>A ・ <b>B</b> ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>今年度は繁忙期の琵琶湖博物館と、25 周年イベント開催時のアクア琵琶にて写真展を開催することができ、多くの方にご来場いただきことができました。</p> <p>また、天ヶ瀬ダム再開発事業の動画作成等の中で、撤去された白虹橋の写真調査に協力することもできた。天ヶ瀬ダム再開発工事が近隣の住民にとっては何の工事か分からないとの意見を伝え、工事現場にどのような工事が行われているかの簡単な内容ではある</p>

		<p>が工事のことが分かる看板設置（予定）へとつなげることもできた。</p>
	<p>2. 河川に対する興味関心を高めることを目指し、各団体の活動を支援していく</p>	<p>A ・ <b>Ⓔ</b> ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>各種団体とのコミュニケーションも積極的に取ることができたと考えている。以前取材を受けた新聞記者の方と、活動団体の方をつなぐことができ、新聞記事として活動が掲載されることにもなった。</p> <p>また、地域の記憶掘り起こしの活動を、TANAKAMI こども環境クラブの方と一緒に夏に実施することができ、田上地区の水利用について子どもたちと一緒に調査することもできた。TANAKAMI こども環境クラブは調査結果や活動を淡海こどもエコクラブ活動交流会にて発表し、滋賀県知事賞(大賞)を受賞し滋賀県代表として3月の全国交流会に参加する結果となった。</p>
	<p>3. 河川レンジャー活動の認知度向上</p>	<p><b>Ⓐ</b> ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>昨年度川づくりフォーラムで発表したパネルを琵琶湖博物館において3ヶ月展示していただいた。今年度も川づくりフォーラムで活動紹介をすることができ、多くの方に活動紹介として作成した今年度の成果冊子を配布することができた。</p> <p>写真展にも多くの方が来場していただき、また新聞にも掲載してもらえたのは大きな成果だと考えている。</p> <p>毎月イベントを実施することで、瀬田川や河川への興味関心、河川レンジャーの認知を高めることができた。</p>
<p>※1年間を通して自ら評価できる点やPRしたい点を記載してください。</p> <p>少しずつではあるが、活動の成果を発信することができてきた。また、活動の発展として天ヶ瀬ダム再開発との連携の可能性も見出すことができたのは良かった。</p> <p>今年度前半は、写真展や活動についてのマスコミからの取材が多くあった。その際に</p>		

感じたことは、河川レンジャーとしての取材をしたいわけではなく、古写真収集とヒアリングの活動そのものに対して取材をしたいということだった。取材を受ける際に、河川レンジャーの制度などのお話はするが、当事者である私が制度そのもののお話ししても、制度の設置側からの情報発信がないとのことで話が進まなかった。地域の歴史や記憶を残す、次世代へ継承する意義のようなものに関心が高かったと思った。

写真展での情報収集については、効果的な調査方法はやはり見いだせていないままである。ただ、「何日位で何人位と話げた」などの数的な情報がどれだけ意義があることなのかは疑問に思える。

	年間活動計画	活動結果
活動内容の計画と結果	※活動計画で掲げた活動内容に対して、実際に実施できた事柄、実施できなかった事柄、さらに、当初予定していなかったが実施できたことなどを、前述の成果目標の番号と対比して記載してください。	
	<p>①河川に関する記憶を掘り起こしと、住民・行政の情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・得られた情報を集約して、水のめぐみ館エリアでの情報発信または展示</li> <li>・地域における写真を活用したヒアリング活動の普及と支援</li> <li>・県内施設などさまざまな場で写真展を通じた会話の場の創出</li> </ul>	<p>写真展の開催は予定通り実施できた。アクア琵琶での写真展開催は、事務所の事業との連携にもつながり大きな成果だったと考えている。</p> <p>ヒアリング調査も継続して実施しており、宇治川汽船に関する写真の収集が多くできたのは良かった。天ヶ瀬ダムとの関連も、その中に設置当時の写真が含まれていたことから始まったので、今後も発展させていきたいと考えている。</p>
	<p>②河川に対する興味関心を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動成果を伝える広報ツール作成</li> <li>・関連団体の活動支援およびネットワークの構築</li> </ul>	<p>今年度の活動成果を、「外畑編」として冊子にまとめることができた。川づくりフォーラムまでに作成することができたため、会場にて60部配布することができた。</p> <p>今年度前半にご縁をいただいた記者さんと、他の活動団体さんをつなげることができたのは、記事掲載として一つの成果につながった。</p>
	<p>③河川レンジャー活動の認知度向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動成果を伝える広報ツールの活用</li> <li>・活動成果を発信する場への参加</li> </ul>	<p>昨年度川づくりフォーラムで発表したパネルを琵琶湖博物館において3ヶ月展示していただけた。今年度も川づくりフォーラムで活動紹介をすることができ、多くの方に活動紹介として作成した今年度の成果冊子を配布することができた。</p> <p>1000人規模のイベント時から少人数の家族連れまでを対象として、月一回程度のイベントを実施したことで、河川への思いを聞き、</p>

		興味関心を引き出すことができた。
	※当初予定していなかったが実施できたことがあれば記載してください⇒	活動の発展として天ヶ瀬ダム再開発との連携の可能性も見出すことができたのは良かった。また、過去の治水利水を学ぶテーマとして、砂防について取り組むことが可能があると調査の中で感触を得ることができたのも良かった。
活動対象に対する関係づくりの結果	※活動計画の中で、「活動の対象」として挙げた相手について、活動を通して実際にどのような関係づくりができたのかを記載してください。また、当初想定していなかった相手との関係づくりが出来た場合には、そのことも記載してください。	
	① 住民(近隣住民で年代を問わない)、河川事務所職員、河川レンジャー	写真展来場の方とお話する機会を得られたのは大きな成果であるが、工務課を中心にした事務所職員の方との関係を持てたのは良かった。今年度得ることができた関係性を今後も継続し、活動をさらに発展させていきたい。
	② 住民(近隣住民で年代を問わない)、関連団体	関連団体の活動に参加させていただくことができ、お互いの活動理解と継続的な関係性構築につなげられたのではないかと思う。
	③ 住民(子どもたちやその家族が中心)	毎月実施している工作などのイベントを通じて、参加してくれた子どもたちや保護者の方と河川についてのお話ができ。あまり河川に関わりがない方が多かったので、いいきっかけになったと考えている。
今後の課題	<p>※ 1年間の活動を通して、今後継続的に取り組んでいきたい事柄、河川レンジャーとして高めていきたい能力などについて記載してください。</p> <p>河川事務所内の事業と連携するきっかけが得られたので、来年度は引き続き自身の活動を継続しながら、事業に貢献できるような情報発信も意識していきたいと考えている。日々の暮らしに近い行政機関などとの接点は持つことができた。河川整備も街づくり、地域づくりの一つの要素であるため、切り離して考えるのではなく、視野を広げていきたい。</p>	

年間活動計画												
工程計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	ヒアリングおよび写真収集	常時活動 常時活動										
会話の場の創出	琵琶湖博物館で写真展開 WSB写真展開 過去の成果を活用した取組み(時期は目安)											
関連団体の活動支援	常時活動(情報を収集しつつ、機会があれば参加)											
活動周知活動	川づくりフォーラム参加 琵琶湖博物館で活動成果展示 子どもや家族を中心に、WSBにて周知と河川への興味関心を目指した取組みを月1度程度開催											

※年間活動計画における工程計画(上段)に対して、活動実績を記載してください。

活動結果												
工程計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	ヒアリングおよび写真収集	常時活動 ●4/7 ●5/30 ●6/30 ●8/11 ●9/1 ●11/23 ●12/1 ●1/8 ●4/9 ●5/31 ●8/12 ●11/30 ●4/22										
会話の場の創出	7/4-30 琵琶湖博物館写真展開 11/7-12/17 アクア琵琶写真展開											
関連団体の活動支援	常時活動(情報を収集しつつ、機会があれば参加) ●4/25 ●6/27 ●7/27 ●8/26 ●9/1 ●12/2 ●1/24 ●3/31 ●7/28 ●9/11											
活動周知活動	2/4 淡海の川づくりフォーラム 1月~3月 琵琶湖博物館で活動成果展示 ●4/29.30 ●5/5 ●7/16.17 ●8/26 ●11/23 ●12/23 ●1/27 ●2/10 ●3月 7/29											
	子どもや家族を中心に、WSB等にて周知と河川への興味関心を目指した取組みを月1度程度開催											

タイトル ラポール(心の架け橋)で創る“みんなが夢中になれる瀬田川”

■年間活動報告書 要約版

氏名： 眞田 拳奨

作成日： 2018年1月28日

	年間活動計画	活動結果
背景と昨年度の課題	<p>(背景)</p> <p>私はボート部員として瀬田川を利用して、毎日瀬田川に寄り添っていることを何かに生かせないかと考えていた。そこで瀬田川関係者がお互いの活動を理解し、思いやることでそれぞれの利用者としての自覚を高めるとともに、お互いに快く瀬田川に集い、瀬田川を守りながらそれぞれが自分達の活動を行えるような環境が創れるのではないかと感じた。</p> <p>(昨年度の課題)</p> <p>昨年度はレンジャーとしての活動を開始し、ミッションにおける第1段階の活動を中心に活動を展開できた。しかし関係者との交流を通して新たな課題が見つかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アダプト制度の適用についての検討が不十分であった。</li> <li>・ヒアリングについて、各団体との交流に留まり、具体的な活動や思いについて聴取しきれなかった。</li> </ul>	
実施目的	<p>(ビジョン)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬田川利用者が相互理解の中で夢中なものに向き合える瀬田川になること。</li> <li>・瀬田川利用者がどういった活動をしているのか互いに知ることで交流を育み、互いに思いやって快く利用し合える関係が出来ること。</li> <li>・瀬田川関係者が理想の瀬田川について考え、利用者間、利用者行政間で適切な連携をとってその実現に向かうことが出来ること。</li> </ul> <p>(ミッション)</p> <p>第1段階</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他種利用者を繋げるために、まずは私自身がヒアリング等を通してどのような利用者がいるか、それらの利用者がどのような活動をしているのかを把握する。</li> <li>・レンジャーである私が利用者とのラポール(心の架け橋)構築を行い、利用者の瀬田川への思いや瀬田川での日常をより深くまで聞き取れるようになる。</li> </ul> <p>第2段階</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私が架け橋となって、瀬田川で夢中なものに向き合っている人同士を繋ぐような場を作る。</li> <li>・瀬田川で何かに夢中になっている人同士がお互い何に夢中になっているのかということを知り合うためのツール、しくみを作る。</li> </ul>	

	<p>第3段階</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者がそれぞれの理想とする瀬田川について意見交換を行い、そのために何が出来るのかを考える場を作る。</li> <li>・利用者が主体的に協力して瀬田川をより良くするような活動を行うことを支援し、行政と適切な連携をとれるよう間に入る。</li> </ul>								
<p>今年度の成果目標と結果</p>	<p>※活動計画で掲げた成果目標に対して実際の達成度をA～F（Aが達成度最大、Fが達成度最低）の6段階で自己評価してください。また、そのように評価した理由や根拠があれば書いてください。</p> <table border="1" data-bbox="323 593 1463 1713"> <tr> <td data-bbox="323 593 874 840"> <p>1. 利用者の利用状況の把握と集計</p> </td> <td data-bbox="874 593 1463 840"> <p>A ・ <b>B</b> ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。</p> <p>瀬田川関係者のみならず、琵琶湖に対して環境活動を行っている団体などの情報も得ることが出来たから。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="323 840 874 1086"> <p>2. 利用者との顔の見える関係作り</p> </td> <td data-bbox="874 840 1463 1086"> <p>A ・ <b>B</b> ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。</p> <p>琵琶湖河川レンジャーとして多くのイベントに参加し、関係団体の方と顔見知りになり、実際に「繋ぐ」活動に展開出来たから。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="323 1086 874 1467"> <p>3. 活動の継続性・連続性の方策の検討</p> </td> <td data-bbox="874 1086 1463 1467"> <p>A ・ B ・ C ・ <b>D</b> ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。</p> <p>具体的な後継者の発見は行なわなかったが、来年度も自分は活動を継続したいと考えているから。</p> <p>また、LINE@については後々にも残るシステムにするために規約やマニュアルを作成出来たから。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="323 1467 874 1713"> <p>※当初想定していなかった成果があれば記載してください⇒</p> </td> <td data-bbox="874 1467 1463 1713"> <p>SNSの活用の提案を受け、LINE@の運用マニュアル、アカウントを作成することが出来た。</p> <p>運用に至るスケジュールが予定より遅れたが、実習期間に実地での活動にも時間を割けたことが要因として考えられる。</p> </td> </tr> </table> <p>※1年間を通して自ら評価できる点やPRしたい点を記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・LINE@の構想から規約・アカウント作成を行い、配信を行うことが出来た点。</li> <li>・釣り人と行政、利用者と行政を実際に繋ぐ活動に移行し始めた。</li> <li>・淡海の川づくりフォーラムでの発表を行い、他団体や知事にも活動をアピール出来た点。</li> <li>・IVUSA、滋賀県琵琶湖環境部職員、遊漁船業協会会員、嘉田前知事など、交流を持った方からこちらに連絡をしてくださるような関係づくりを行えている。</li> </ul>	<p>1. 利用者の利用状況の把握と集計</p>	<p>A ・ <b>B</b> ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。</p> <p>瀬田川関係者のみならず、琵琶湖に対して環境活動を行っている団体などの情報も得ることが出来たから。</p>	<p>2. 利用者との顔の見える関係作り</p>	<p>A ・ <b>B</b> ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。</p> <p>琵琶湖河川レンジャーとして多くのイベントに参加し、関係団体の方と顔見知りになり、実際に「繋ぐ」活動に展開出来たから。</p>	<p>3. 活動の継続性・連続性の方策の検討</p>	<p>A ・ B ・ C ・ <b>D</b> ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。</p> <p>具体的な後継者の発見は行なわなかったが、来年度も自分は活動を継続したいと考えているから。</p> <p>また、LINE@については後々にも残るシステムにするために規約やマニュアルを作成出来たから。</p>	<p>※当初想定していなかった成果があれば記載してください⇒</p>	<p>SNSの活用の提案を受け、LINE@の運用マニュアル、アカウントを作成することが出来た。</p> <p>運用に至るスケジュールが予定より遅れたが、実習期間に実地での活動にも時間を割けたことが要因として考えられる。</p>
<p>1. 利用者の利用状況の把握と集計</p>	<p>A ・ <b>B</b> ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。</p> <p>瀬田川関係者のみならず、琵琶湖に対して環境活動を行っている団体などの情報も得ることが出来たから。</p>								
<p>2. 利用者との顔の見える関係作り</p>	<p>A ・ <b>B</b> ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。</p> <p>琵琶湖河川レンジャーとして多くのイベントに参加し、関係団体の方と顔見知りになり、実際に「繋ぐ」活動に展開出来たから。</p>								
<p>3. 活動の継続性・連続性の方策の検討</p>	<p>A ・ B ・ C ・ <b>D</b> ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。</p> <p>具体的な後継者の発見は行なわなかったが、来年度も自分は活動を継続したいと考えているから。</p> <p>また、LINE@については後々にも残るシステムにするために規約やマニュアルを作成出来たから。</p>								
<p>※当初想定していなかった成果があれば記載してください⇒</p>	<p>SNSの活用の提案を受け、LINE@の運用マニュアル、アカウントを作成することが出来た。</p> <p>運用に至るスケジュールが予定より遅れたが、実習期間に実地での活動にも時間を割けたことが要因として考えられる。</p>								

	年間活動計画	活動結果
活動内容の計画と結果	※活動計画で掲げた活動内容に対して、実際に実施できた事柄、実施できなかった事柄、さらに、当初予定していなかったが実施できたことなどを、前述の成果目標の番号と対比して記載してください。	
	① 瀬田川関係者（瀬田川漁協、石山寺観光協会、琵琶湖漕艇場、ボート部、カヌー部、釣り人）についてどのような活動を行っているのかの概要を把握する（最低5団体）。そのヒアリング内容を情報として整理、集計する。	瀬田川関係者へのヒアリングとしては、漁協、釣り人、コハク鳥の会の方、河川事務所に対して行うことが出来た。 琵琶湖関係者へのヒアリングとしては、滋賀県職員、学生団体 haconiwa、ヨット利用者に対してヒアリングを行うことが出来た。
	② 琵琶湖河川レンジャーとして自分の存在を認知してもらい、連携出来る関係を作る。それをもとに今年度はミッションの第2段階にあるように、イベントなどの機会に活動ジャンルの違う団体同士を紹介することで繋がりを仲介したい。	琵琶博学生ミーティング、琵琶湖クルーズへの参加と、淡海の川づくりフォーラムでの発表を行った。 IVUSA とは来年のオオバナミズキンバイ除去に向けて連携体制を協議している。 滋賀県庁職員にコハクチョウの会の写真家の紹介など、活動ジャンルの異なる団体を要望に応じて紹介し、行政と住民を繋ぐ活動を行えた。
	③ 活動を部内や関係者で引き継いでいけるよう、人材発掘やレンジャートライアル制度を利用した育成、これまでの活動情報・ネットワークの情報まとめ。	人材発掘についてはレンジャートライアル制度の活用には至らなかった。  システムの継続性という点で、LINE@の運用規約を作成したことは後々に残していけるものとなった。
	※当初予定していなかったが実施できたことがあれば記載してください⇒	LINE@の登録者数は2018/2/11時点で22名。 私の活動や琵琶湖に関するイベントの情報を配信中。今後の告知が課題である。
活動内容の計画と結果	※活動計画の中で、「活動の対象」として挙げた相手について、活動を通して実際にどのような関係づくりができたのかを記載してください。また、当初想定していなかった相手との関係づくりが出来た場合には、そのことも記載してください。	
	① 瀬田川利用者及び管理関係者	釣り人：清掃活動への参加を通して昨年度に引き続き交流を行えた。また、遊漁船業協会との交流も開始した。 瀬田漕艇クラブ：新たに活動のアピールを行うことが出来た。 瀬田町漁協：新たに交流が始まり、とても協力的な関係作りを行えた。 自治会：蛍谷の自治会長さんと日々身近な交流が行えている。 河川事務所職員：意見交換会などで交流する機



		<p>会が増え、来年度はミズベリングでの協働の計画をしている。</p> <p>京都大学ボート部：新入部員の一部にレンジャー活動の話をしたところ、興味を持ってくれた部員がいる。</p>
	<p>② 琵琶湖利用者及び管理関係者</p>	<p>滋賀県職員：水辺の清掃や琵琶湖クルーズ、淡海の川づくりフォーラムへの参加を通して交流を行い、京都環境フェスティバルの際には関係団体を紹介する形で支援することが出来た。</p> <p>ヨット利用者：大会に招待していただき、交流を行えた。どう瀬田川に絡めるかが今後の課題である。</p> <p>学生団体：haconiwa や IVUSA などの団体と交流を行い、学生団体での意見交換イベントを行うことを企画中。</p>
	<p>③</p>	
<p>今後の課題</p>	<p>※ 1年間の活動を通して、今後継続的に取り組んでいきたい事柄、河川レンジャーとして高めていきたい能力などについて記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・LINE@のアカウント作成は行なうことが出来たため、瀬田川での普及を目指した地域密着型の活動が必要である。LINE@について記事の更新を継続するとともに、フォトコンテストなどのLINE上のイベントも開催する。</li> <li>・学生団体同士での意見交換イベントをしたいと言われていて、現在 haconiwa や IVUSA と連絡を取り合っている。今後話を詰めて学生意見交換会を開催したい。</li> <li>・遊漁船業協会のルール改定に際して、瀬田川周辺の情報に関して意見提供を求められているので、今後意見提供を行い、遊漁船業協会の自主ルールに協力する活動を行っていく。また、釣り人の出版する書籍への情報提供の依頼も受けているので出版物という形で活動の成果を作っていきたい。</li> <li>・河川事務所と連携して、水上利用者主体のミズベリングを協議中であり、実現する。</li> <li>・瀬田川中心の活動のはずが、琵琶湖での活動になってしまっており、瀬田川に寄り添うことが減ってきてしまっていることが課題である。</li> </ul>	

		年間活動計画											
工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
① 利用者の利用状況の把握と集計			利用者へのヒアリング					聴取内容の整理と集計					
	② 利用者との顔の見える関係作り		適宜イベント参加			アダプト制度の検討			ネットや冊子を用いての情報共有				
		③ 活動の継続性・連続性の方策の検討		部内での人材発掘			レンジアトリアル制度の活用			引継ぎ項目の検討 情報整理			

※年間活動計画における工程計画（上段）に対して、活動実績を記載してください。

		活動結果												
工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
利用者の利用状況の把握と集計			関係団体へのヒアリング →											
			5/5 ボート関係者		7/3 ヨット利用者							1/20 釣り人		
利用者との顔の見える関係作り			5/14 瀬田川歩行者		7/1 漁協					12/2 沖島住民				
				7/7.7/31.2/13 琵琶湖河川事務所										
			6/29 LINE@構想											
						10/26～ 運営規約作成								
					12/30～ 試験運用とフィードバック									
								2/4～ 運用開始と広報活動						

